本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書で使用している表記について説明しています。

第 1 章　リモートマネジメント コントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要、ご使用になる上での留意事項について説明しています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に必ずお読みください。

第 2 章　準備

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

第 3 章　起動と終了

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了方法について説明しています。

第 4 章　情報の参照と設定

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

付録

この章では、リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用する際に必要な設定について説明しています。

本書をお読みになる前に

■ 本書の表記

● 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

● キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。
例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。
例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

● 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：　「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

●「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

● コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では［CD/DVD ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。
  ［CD/DVD ドライブ］:¥setup.exe

● Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD/DVD ドライブおよびフロッピーディスクドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/」、「mnt または media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、以下の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(IPF) の場合
  /media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)/RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合
  /media/cdrom、/media/floppy

重要

▶ RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合、マウント処理は以下の手順で行ってください。

```
# mkdir /media/cdrom
# mount /dev/cdrom /media/cdrom
または
# mkdir /media/floppy
# mount /dev/floppy /media/floppy
```

- RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合
  /mnt/cdrom、/mnt/floppy

● 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

● PRIMERGY スタートアップディスクについて

ご購入時の状態によって、製品に添付されているディスクが以下のいずれかのディスクになります。

- PRIMERGY スタートアップディスク
- PRIMERGY スタートアップディスク for Linux

本書では、いずれのディスクも「PRIMERGY スタートアップディスク」と表記しています。お手持ちのディスクに読み替えてください。

● 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
Microsoft® Windows® Small Business Server 2003</td><td>Windows Server 2003</td><td rowspan="9">Windows</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2
Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition</td><td>Windows Server 2003 R2</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 2000 Server
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server</td><td colspan="2">Windows 2000 Server</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® Server Network Operating System Version 4.0
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0</td><td colspan="2">Windows NT</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® XP Professional</td><td colspan="2">Windows XP</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 2000 Professional</td><td colspan="2">Windows 2000</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System 4.0</td><td colspan="2">Windows NT 4.0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Red Hat Enterprise Linux 5（for x86）</td><td>Red Hat Linux</td><td rowspan="11">Linux</td></tr>
<tr><td>RHEL5(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux 5（for Intel64）</td><td>RHEL5(Intel64)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）</td><td>RHEL-AS4(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）</td><td>RHEL-ES4(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）</td><td>RHEL-AS4(EM64T)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）</td><td>RHEL-ES4(EM64T)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for x86）</td><td>RHEL-AS3(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for Itanium）</td><td>RHEL-AS3(IPF)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.3 for x86）</td><td>RHEL-ES3(x86)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SUSE® Linux® Enterprise Server 9 for x86</td><td>SUSE Linux</td></tr>
<tr><td>SLES9(x86)</td></tr>
<tr><td>Intel LANDesk® Server Manager</td><td colspan="2">LDSM</td></tr>
<tr><td>リモートサービスボード
（PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 ）</td><td colspan="2">リモートサービスボード</td></tr>
</table>

■ 参考情報

● iRMC 説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「iRMC 説明書」に記載されています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に、必ずお読みください。
「iRMC 説明書」は、"iRMC_Hints.txt" というファイル名で、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

● 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「iRMC 説明書」（iRMC_Hints.txt）内に記載されています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に、ご確認ください。
本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

● ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ
（http://primeserver.fujitsu.com/primergy/）に記載されています。

■ 商標

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
SUSE は米国 Novell,Inc. の一部門である SUSE LINUX AG. の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2008

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目　次

第 1 章　リモートマネジメントコントローラの概要

1.1 リモートマネジメントコントローラとは 10
1.1.1 対応機種と機能 10
1.2 留意事項. 11

第 2 章　準備

2.1 準備 14
2.1.1 IP アドレスの設定 14
2.1.2 ユーザ名とパスワードの設定 14

第 3 章　起動と終了

3.1 Webインターフェースの起動 18
3.2 Webインターフェースの操作 20
3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧 21
3.3 Webインターフェースの終了 23

第 4 章　情報の参照と設定

4.1 System Information 26
4.1.1 System Overview 26
4.1.2 System Component Information 28
4.2 iRMC S2 29
4.2.1 iRMC S2 Information 29
4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定 30
4.2.3 Save iRMC S2 Firmware Settings 31
4.2.4 Certificate Upload 32
4.2.5 Generate a self signed RSA Certificate（「iRMC S2」のみ） 33
4.3 Power Management 35
4.3.1 Power On/Off 35
4.3.2 Power Options 37
4.3.3 Power Supply Information（「iRMC S2」のみ） 38
4.4 Power Consumption 40
4.4.1 Power consumption configuration（「iRMC S2」のみ） 40
4.4.2 Power Consumption History（「iRMC S2」のみ） 42
4.5 Sensors 44
4.5.1 Fans 44
4.5.2 Temperature 47
4.5.3 Voltages and Current 49
4.5.4 Power Supply 51

4.5.5 Component Status 52
4.6 System Event Log 53
4.6.1 System Event Log Content 53
4.6.2 System Event Log Configuration 55
4.7 Server Management Information 56
4.8 Network Settings 58
4.8.1 Network Interface 58
4.8.2 Ports and Network Services 60
4.8.3 DHCP Configuration 62
4.8.4 DNS Configuration 63
4.9 Alerting 64
4.9.1 SNMP Trap Alerting 64
4.9.2 Email Alerting 65
4.10 User Management 67
4.10.1 User Management 67
4.10.2 Directory Service Configuration 72
4.11 Console Redirection 74
4.11.1 BIOS Text Console 74
4.11.2 Advanced Video Redirection 75
4.11.3 Video Redirection の画面構成 78
4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定 79
4.11.5 リモートストレージ接続 81
4.11.6 グラフィカルキーボード 85
4.11.7 マウス、キーボードの設定 85
4.12 Remote Storage 87
4.13 iRMC SSH Access 89
4.13.1 接続方法と終了方法 89
4.13.2 メインメニュー 90
4.14 iRMC Telnet Access 91
4.15 Session Logout 92

付　録

A LDAPを使用する場合の設定 94

第 1 章

リモートマネジメントコントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要について説明しています。

1.1　リモートマネジメントコントローラとは 10
1.2　留意事項 11

1.1　リモートマネジメントコントローラとは

リモートマネジメントコントローラとは、ベースボード（On Board）に搭載される Baseboard Management Controller（BMC）にリモートサービスボード（RSB）の機能を付加し、リモート環境からサーバの状態確認や設定、電源制御などを行える機能です。
ここでは、リモートマネジメントコントローラにリモートからアクセスし、操作するための Web インターフェースについて説明します。

1.1.1　対応機種と機能

● リモートマネジメントコントローラ の対応機種

リモートマネジメントコントローラには、通常の iRMC と、メモリや CPU の予防保守機能「PDA」を拡張した iRMC S2 があります。iRMC、iRMC S2 は IPMI2.0 をサポートしており、それぞれ搭載されるサーバが異なります。

● リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの機能

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースには、以下の機能があります。

- システム情報の表示→「4.1 System Information」（P.26）
- サーバの操作（再起動、電源投入／切断）→「4.3 Power Management」（P.35）
- 各センサの状態表示（ファン、温度、電圧、電源）→「4.5 Sensors」（P.44）
- ログの表示→「4.6 System Event Log」（P.53）
- サーバ管理情報の表示と設定→「4.7 Server Management Information」（P.56）
- ネットワークの設定→「4.8 Network Settings」（P.58）
- アラート送信→「4.9 Alerting」（P.64）
- ユーザ情報の表示と設定→「4.10 User Management」（P.67）
- Video Redirection とリモートストレージ接続→「4.11 Console Redirection」（P.74）

重要

- リモートマネジメントコントローラは、ベースボード上では BMC（Baseboard Management Controller）の一部となるため、統合されて「iRMC」／「iRMC S2」と表示されます。
  以降の説明において「iRMC」と表記している箇所は iRMC ／ iRMC S2 共通、「iRMC S2」と表記している箇所は iRMC S2 のみに対応した機能です。また、特定のバージョン以降で対応された機能は（Vx.xxA 以降）と表記します。
- Advanced Video Redirection およびリモートストレージ接続の機能を使用するには、専用のライセンスキー（オプション品）が別途必要です。
- 画面データおよび画面の説明は、機種、構成、版数により表示されない場合があります。

1.2　留意事項

リモートマネジメントコントローラをお使いになる上での留意事項について説明します。

■ セキュリティについて

リモートマネジメントコントローラの扱う情報の中には、管理者名などの個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

■ その他の留意事項

- リモートマネジメントコントローラはハードウェア（サーバ本体）の一部です。Web インターフェースの表示は、すべて英語になります。
- Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_10 以降の JRE が必要です。

  ただし、Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.6.0 以降の JRE は、iRMC V1.66A 以降の iRMC が必要です。

  iRMC V1.66A より前の iRMC に Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.6.0 以降の JRE を使用すると、Video Redirection が動作しません。
- リモートマネジメントコントローラアクセス用に個別の IP アドレスが必要です（DHCP でも可能です）。
- 機種により、リモートマネジメントコントローラに接続する LAN ポートが決まっています。サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照し、正しい LAN ポートに接続してください。
- シリアル接続による制御は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。
- 以下の接続方法および設定については、未サポートです。
  - ・Serial / Modem Alerting 機能
  - ・動作 Shell を「SMASH CLP/CLI」に設定した場合のリモートマネージャ接続、またはリモートマネージャ接続中に Shell を「SMASH CLP/CLI」に設定した場合の動作
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、以下のブラウザのみをサポートします。
  - ・Windows

    Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
  - ・Linux

    Mozilla FireFox

重要

- Mozilla FireFox の V1.5.0.7 以降のバージョンは iRMC V1.66A 以降でサポートします。V1.66A より前バージョンの iRMC へ Mozilla FireFox でアクセスする場合は、V1.5.0.6 以前のバージョンをご使用ください。
- Microsoft Internet Explorer 7でiRMCへアクセスすると何度もログインが要求される場合があります。その場合は、以下の URL にあるマイクロソフトのパッチを適用してください。
  http://support.microsoft.com/kb/904942/ja

第 2 章

準備

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

2.1　準備 14

2.1 準備

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースおよびリモートマネージャへのアクセス用に、IP アドレス／ユーザ名／パスワードを設定します。

2.1.1 IP アドレスの設定

初期状態では、DHCP が「無効」に設定されているため、IP アドレスの設定が必要です。
IP アドレスを個別に設定する場合は、Server Management Tools（IPMIview）や Web インターフェースを利用するか、BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

POINT

- 現在設定されている IP アドレスが不明な場合は、Server Management Tools（IPMIview）で確認できます。Server Management Tools（IPMIview）が添付されない機種での初期設定には、BIOS セットアップユーティリティを使用してください。

2.1.2 ユーザ名とパスワードの設定

リモートマネジメントコントローラへアクセスするためのユーザ名とパスワードは、初期状態で以下のように設定されています。

表：初期登録ユーザ名とパスワード

ユーザ名	パスワード	アクセスレベル／ 動作 Shell 種別
admin	admin	OEM / RemoteManager

ユーザ名とパスワードを個別に設定する場合は、Server Management Tools（IPMIview）または Web インターフェースを利用して設定してください。

POINT

- 現在設定されているユーザ名／パスワードが不明な場合は、Server Management Tools（IPMIview）で確認できます。Server Management Tools（IPMIview）が添付されない機種では、Web インターフェースを使用してください。

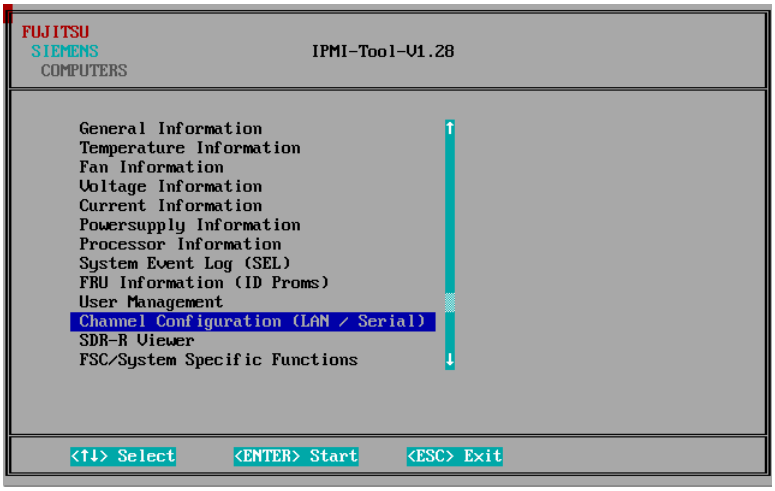
■ Server Management Tools（IPMIview）を使用した設定方法

Server Management Tools（IPMIview）を使用して、IP アドレス／ユーザ名／パスワードを設定する方法について説明します。

1 IPMIVIEW.exe が入った DOS の起動フロッピーディスクから IPMIVIEW を起動します。

```
>ipmiview.exe
```

2 IPMIVIEW のメニューより目的のメニューを選択します。



iRMC の IP アドレス設定

1. メニューより「Channel Configuration（LAN / Serial）」を選択します。
2. メニューより「2 802.3_LAN」を選択します。
3. 【F1】キー（General Settings）を押します。
4. 各項目を設定します。
   IPAddressSource には、3 を設定してください。
5. 【F1】キー（SetValues）を押して、設定を格納し終了します。

iRMC のユーザ名／パスワード設定

1. メニューより「User Management」を選択します。
2. ユーザー覧より変更したいユーザ名（追加の場合は設定されていない番号）を選択します。
3. ユーザ名、パスワード、各権限を設定します。
4. 【F1】キー（SetValues）を押して、設定を格納し終了します。

3 【Esc】キーを押して、IPMIVIEW を終了します。

第 3 章

起動と終了

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了の方法について説明しています。

3.1 Web インターフェースの起動 18
3.2 Web インターフェースの操作 20
3.3 Web インターフェースの終了 23

3.1 Web インターフェースの起動

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの起動方法について説明します。

POINT

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、Java または JavaScript を使用します。Web ブラウザ側で、Java または JavaScript を使用できるように設定してください。
- 自サーバのリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを自サーバの OS 上からアクセスする際、iRMC の LAN ポートを OS の LAN ポートと共用している場合には、OS の該当 LAN ポートを無効に設定してください。
- 以降、本書では「iRMC S2」の画面にて説明します。
  「iRMC」では若干画面表記が異なります。画面表記の「iRMC S2」は「iRMC」に読み替えてください。なお、「iRMC S2」のみサポートする機能については「「iRMC S2」のみ」と記載しています。

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動には、Web ブラウザを使用します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレス欄に、以下のように入力します。

http を利用する場合

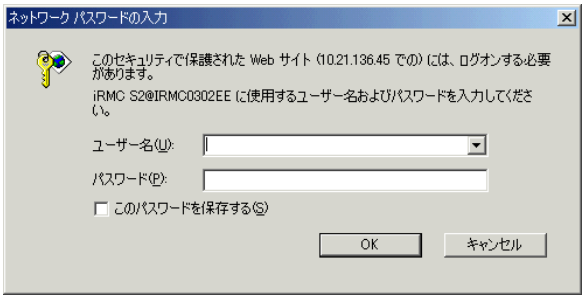
http:// ＜リモートマネジメントコントローラに設定した IP ＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 80）＞

https を利用する場合

https:// ＜リモートマネジメントコントローラに設定した IP ＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 443）＞

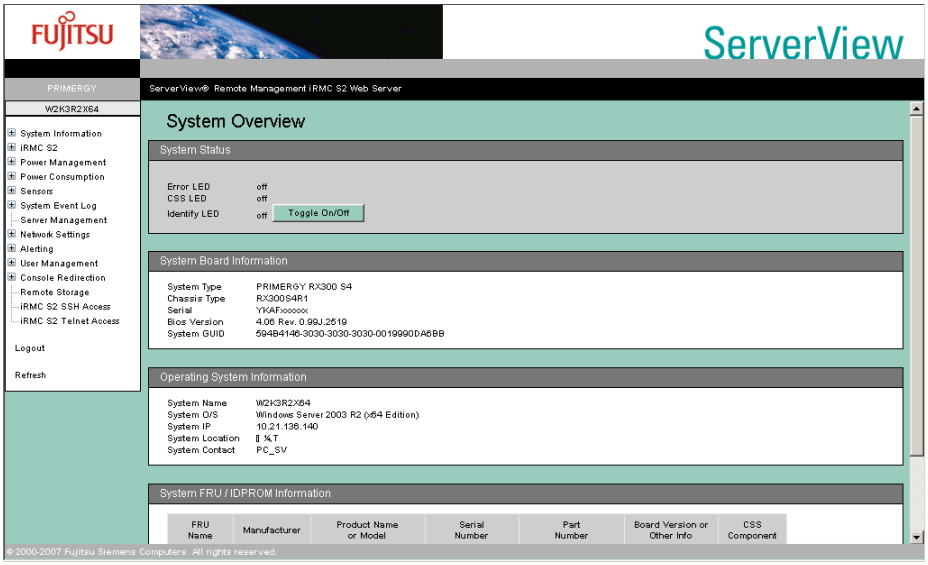
3 【Enter】キーを押します。

ネットワークパスワードの入力画面が表示されます。



4 リモートマネジメントコントローラに設定したユーザ名とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

Web インターフェースのメイン画面が表示されます。



POINT

- ServerView S2 の「リモートマネージャ」画面からリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを起動することもできます。

3.2 Web インターフェースの操作

各設定画面の表示方法および、設定の操作について説明します。

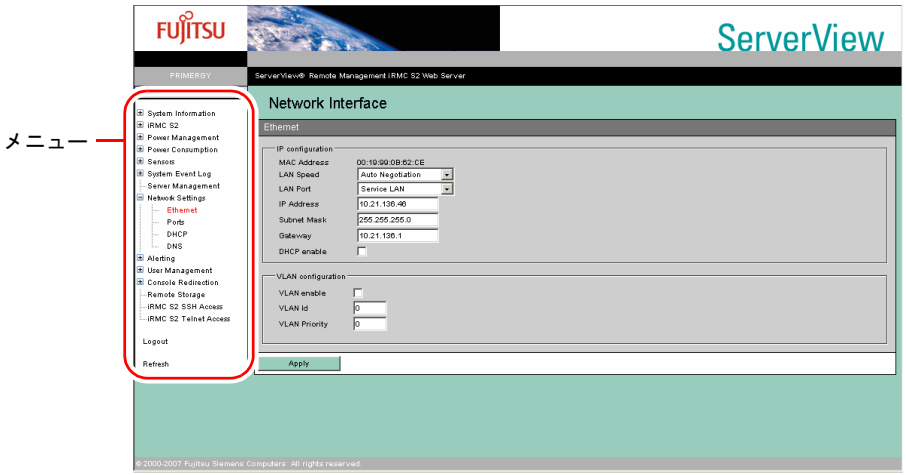
1 Web インターフェースのメイン画面を表示します。

→「3.1 Web インターフェースの起動」（P.18）

2 画面左部のツリーメニューから、メニューを選択します。

［+］が付いているメニューは、下位メニューがあります。［+］部分をクリックすると下位メニューが表示されます。

→「3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧」（P.21）



3 情報を参照、または設定します。

設定値を変更した場合は、各項目で［Apply］をクリックして反映します。
その他のボタンについては、各画面での説明を参照してください。
各画面での詳細な説明については、「第 4 章 情報の参照と設定」（→ P.25）を参照してください。

POINT

- Web インターフェース画面の再読み込みを行いたい場合は、メニューから「Refresh」を選択します。

3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧

Web インターフェースのメニューについて説明します。

表：Web インターフェースのメニュー

メニュー	説明
System Information	リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムの情報を表示します。
System Overview	システムの概要情報が表示されます。 →「4.1.1 System Overview」（P.26）
System Components	システムの内部構成情報が表示されます。 →「4.1.2 System Component Information」（P.28）
iRMC S2	リモートマネジメントコントローラに関する表示、設定を行います。
iRMC S2 Information	リモートマネジメントコントローラに関する情報を表示します。 →「4.2.1 iRMC S2 Information」（P.29）
Save Configuration	リモートマネジメントコントローラの情報をセーブします（V1.66A 以降）。 →「4.2.3 Save iRMC S2 Firmware Settings」（P.31）
Certificate Upload	リモートマネジメントコントローラの認証データを設定します（V1.66A 以降）。 →「4.2.4 Certificate Upload」（P.32）
Generate Certificate	リモートマネジメントコントローラで RSA 認証を取得します（V1.66A 以降）。 →「4.2.5 Generate a self signed RSA Certificate（「iRMC S2」のみ）」（P.33）
Power Management	電源制御に関する設定を行います。
Power On/Off	サーバの電源状態を表示します。また、サーバの電源の ON/OFF や再起動を行います。 →「4.3.1 Power On/Off」（P.35）
Power Options	AC 復帰時の動作設定やスケジュール運転の設定を行います。 →「4.3.2 Power Options」（P.37）
Power Supply Info	サーバに接続されている Power Supply（電源装置）の情報を表示します。 →「4.3.3 Power Supply Information（「iRMC S2」のみ）」（P.38）
Power Consumption	消費電力に対する動作設定を行います（「iRMC S2」のみ）。
Consumption Options	サーバの消費電力に対する動作を指定します。 →「4.4.1 Power consumption configuration（「iRMC S2」のみ）」（P.40）
Power History	サーバの消費電力をグラフ表示します。 →「4.4.2 Power Consumption History（「iRMC S2」のみ）」（P.42）
Sensors	サーバ内の各センサの状態を表示します。
Fans	ファンの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「4.5.1 Fans」（P.44）
Temperature	温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「4.5.2 Temperature」（P.47）
Voltages	サーバ内の電圧と電流の状態を表示します。 →「4.5.3 Voltages and Current」（P.49）
Power Supply	電源ユニットの状態を表示します。 →「4.5.4 Power Supply」（P.51）
Component Status	各センサの状態を表示します。 →「4.5.5 Component Status」（P.52）

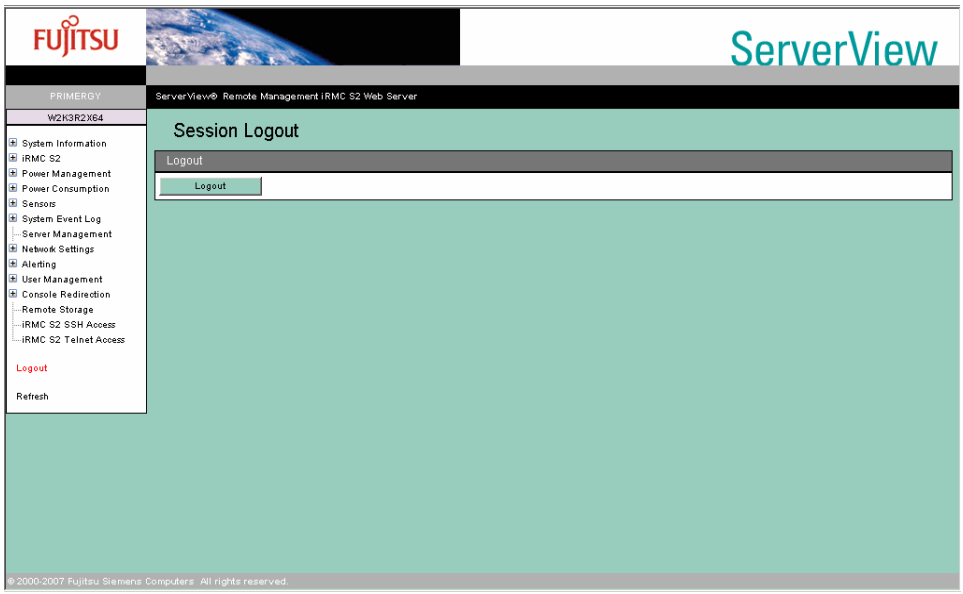
表：Web インターフェースのメニュー

メニュー	説明
System Event Log	ベースボード上に格納されているシステムイベントログを表示します。
SEL Content	イベントログを表示／クリアを行います。 →「4.6.1 System Event Log Content」（P.53）
SEL Configuration	イベントログに関する設定を行います（V1.66A 以降）。 →「4.6.2 System Event Log Configuration」（P.55）
Server Management	サーバ管理情報を表示します。また、サーバの起動や再起動の設定を行います。 →「4.7 Server Management Information」（P.56）
Network Settings	リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定を行います。
Ethernet	リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。 →「4.8.1 Network Interface」（P.58）
Ports	ポート番号を設定します。 →「4.8.2 Ports and Network Services」（P.60）
DHCP	DHCP の設定を行います。 →「4.8.3 DHCP Configuration」（P.62）
DNS	DNS の設定を行います。 →「4.8.4 DNS Configuration」（P.63）
Alerting	SNMP トラップや E-mail の送信設定を行います。
SNMP Traps	SNMP トラップの送信設定を行います。 →「4.9.1 SNMP Trap Alerting」（P.64）
Serial/Modem	シリアルポート／モデムの設定を行います。未サポートです。
Email	送信する E-mail の設定を行います。 →「4.9.2 Email Alerting」（P.65）
User Management	リモートマネジメントコントローラで使用するユーザの情報を設定します。
iRMC S2 User	リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ情報を設定します。 →「4.10.1 User Management」（P.67）
LDAP Configuration	ディレクトリサービスを利用する場合の設定を行います（V1.66A 以降）。 →「4.10.2 Directory Service Configuration」（P.72）
Console Redirection	コンソールリダイレクションに関する設定、起動を行います。
BIOS Text Console	RemoteControlService でコンソールリダイレクションを行う場合の設定を行います。 →「4.11.1 BIOS Text Console」（P.74）
Video Redirection	Video Redirection を起動します。リモートでコンソールのリダイレクションを行う場合の設定を行います。また、リモートストレージの設定を行います。 →「4.11 Console Redirection」（P.74）
Remote Storage	リモートストレージ接続状態表示、および外部起動 DISK の設定を行います。 →「4.12 Remote Storage」（P.87）
iRMC SSH Access	リモートマネジメントコントローラへの SSH アクセス画面を起動します。 →「4.13 iRMC SSH Access」（P.89）
iRMC Telnet Access	リモートマネジメントコントローラへの Telnet アクセス画面を起動します。 →「4.14 iRMC Telnet Access」（P.91）
Logout	リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのセッションからログアウトします。 →「4.15 Session Logout」（P.92）
Refresh	リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェース画面の再読み込みを行います。

3.3　Web インターフェースの終了

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの終了方法について説明します。

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了する場合は、メニューの「Logout」からログアウトしてください。また、ログアウトせずに Web ブラウザを終了させると、自動的にログアウトされます。



第 4 章

情報の参照と設定

4

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

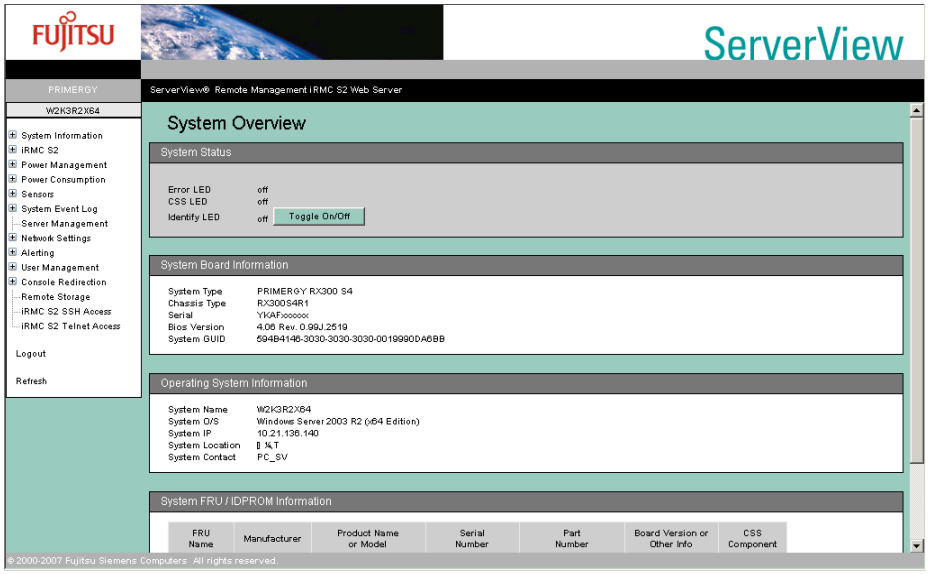
4.1 System Information 26
4.2 iRMC S2 29
4.3 Power Management 35
4.4 Power Consumption 40
4.5 Sensors 44
4.6 System Event Log 53
4.7 Server Management Information 56
4.8 Network Settings 58
4.9 Alerting 64
4.10 User Management 67
4.11 Console Redirection 74
4.12 Remote Storage 87
4.13 iRMC SSH Access 89
4.14 iRMC Telnet Access 91
4.15 Session Logout 92

4.1 System Information

リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムのシステム情報を表示します。

4.1.1 System Overview

システムの概要情報が表示されます。



表：System Overview に表示される項目の説明

項目	説明
System Status	システム LED の状態を表示します。
Error LED	サーバ前面の Error LED の点灯（On）／消灯（Off）が表示されます。
CSS LED	サーバでユーザが交換可能な Memory / CPU の異常（予兆）がある場合に点灯します（「iRMC S2」のみ）。
Identify LED	サーバのシステム識別灯の点灯（On）／消灯（Off）が表示されます。情報名の右側に表示されている［Toggle］をクリックすることによって、点灯（On）／消灯（Off）を切り替えることができます。
System Board Information	ベースボードの情報が表示されます。
System Type	サーバのシステムタイプが表示されます。
Chassis Type	サーバのシャーシタイプが表示されます。
Serial	ベースボードのシリアル番号が表示されます。
Bios Version	BIOS のバージョンが表示されます。
System GUID	ベースボード ID が表示されます。

表：System Overview に表示される項目の説明

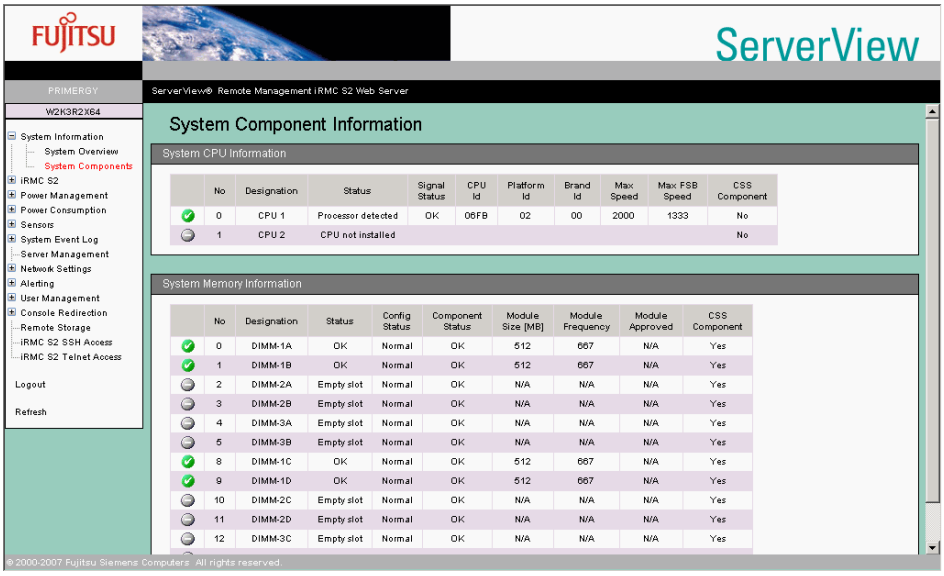
項目	説明
Operating System Information	OS の情報が表示されます。
System Name	OS で設定されたサーバ名が表示されます。
System O/S	OS の種類が表示されます。
System IP	OS に設定された IP アドレスが表示されます。
System Location	OS の SNMPService に設定されたシステムの場所が表示されます。
System Contact	OS の SNMPService に設定された管理者名が表示されます。
System FRU / IDPROM Information	ハードウェアの情報が表示されます（「iRMC S2」のみ）。
FRU Name	ハードに設定されている部品名です。
Manufacturer	各部品の製造会社が表示されます。
Product Name or Model	製品名、またはモデル名が表示されます。
Serial Number	シリアル番号が表示されます。
Part Number	個体番号が表示されます。
CSS Component	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

POINT

- リモートマネジメントコントローラでは日本語のサポート機能がありませんので、「System Location」および「System Contact」に日本語を使用している場合、文字化けして表示されます。

4.1.2 System Component Information

システムの内部構成情報が表示されます。



表：System Component Information に表示される項目の説明

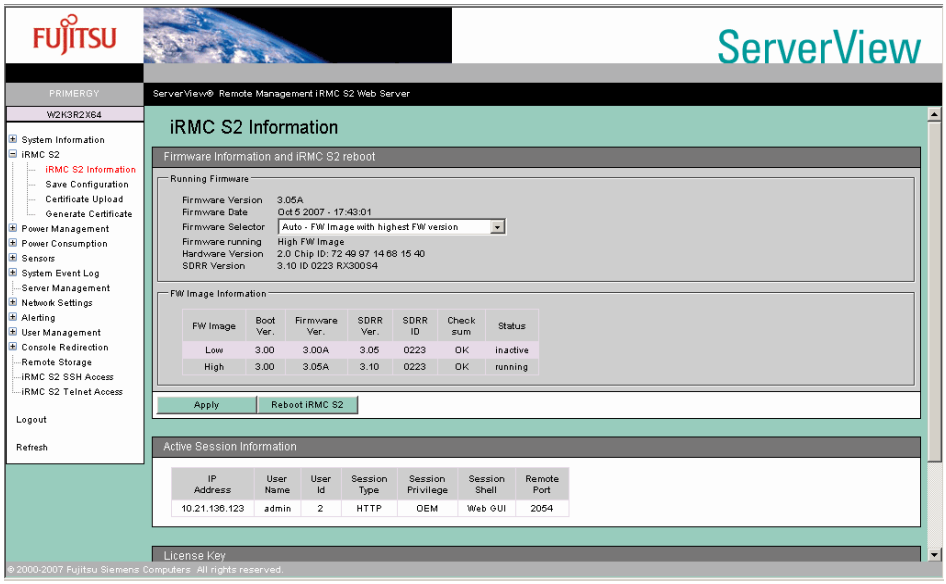
項目	説明
System CPU Information	CPU の情報が表示されます。
No	CPU の通し番号が表示されます。
Designation	CPU のセンサ名が表示されます。
Status	CPU の有無が表示されます。
Signal Status	CPU の状態が表示されます。
CPU Id	CPU の ID が表示されます。
Platform Id	CPU のプラットフォーム ID が表示されます。
Brand Id	CPU のブランド ID が表示されます。
Max Speed	CPU の動作周波数が表示されます。
Max FSB Speed	CPU のベースクロック周波数が表示されます。
CSS Component	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます（「iRMC S2」のみ）。
System Memory Information	サーバ搭載メモリ情報が表示されます（「iRMC S2」のみ）。
No	メモリカードの通し番号が表示されます。
Designation	メモリのセンサ名が表示されます。
Status	メモリスロットの搭載有無が表示されます。
Config Status	メモリの構成情報が表示されます。
Component Status	メモリの状態が表示されます。
Module Size [MB]	メモリのサイズが [MB] 単位で表示されます。
Module Frequency	メモリの動作周波数が [MHz] 単位で表示されます。
Memory Approved	メモリの認証状況を表示します（N/A、NO でも問題ありません）。
CSS Component	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

4.2　iRMC S2

リモートマネジメントコントローラに関する情報の表示／設定を行います。

4.2.1　iRMC S2 Information

リモートマネジメントコントローラの情報表示、設定を行います。



表：iRMC S2 Information に表示される項目の説明

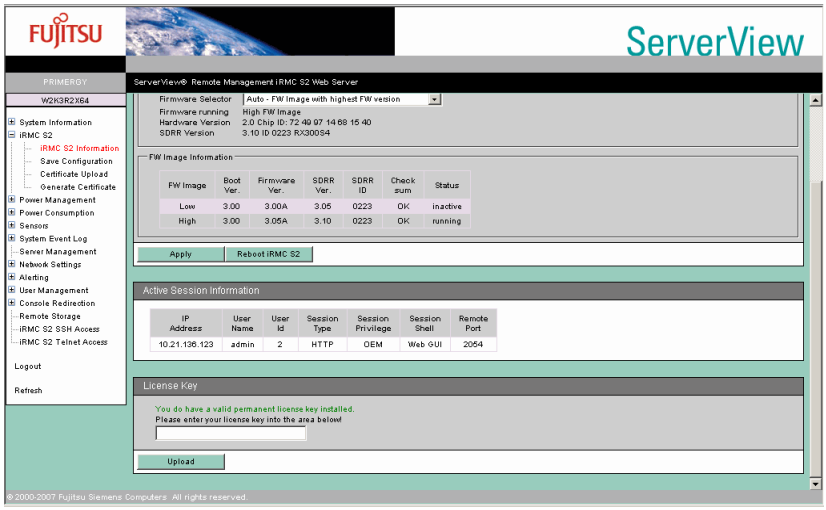
項目	説明
Firmware Information and iRMC S2 reboot	iRMC のファームウェア情報が表示されます。
Firmware Version	iRMC のバージョンが表示されます。
Firmware Date	iRMC ファームウェアの作成日が表示されます。
Firmware Selector	ファームウェアの位置（ROM 内）が表示されます（変更禁止です）。
Firmware running	動作中のファームウェア番号（ROM 内番号）が表示されます。
Hardware Version	サーバのハードウェアのバージョンが表示されます。
SDRR Version	センサ、しきい値を定義した情報のバージョンが表示されます。
FW Image Information	ファームウェア格納 ROM 内の情報です。
［Apply］	設定の適用ボタンです。使用しません。
［Reboot iRMC S2］	iRMC のリブートを行います（「iRMC S2」のみ）。

表：iRMC S2 Information に表示される項目の説明

項目	説明
Active Session Information	iRMC に接続しているマシンの情報です（V1.66A 以降）。
IP Address	接続している（していた）マシンの IP アドレスが表示されます。
User Name	iRMC へのログイン ID が表示されます。
User ID	ログイン ID のユーザ番号です。→「4.10 User Management」（P.67）
Session Type	接続プロトコルが表示されます。
Session Privilege	アクセス権限が表示されます。
Session Shell	アクセス形態が表示されます。
Remote Port	接続マシンの使用ポートが表示されます。

4.2.2　リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定

リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定を行います。



表：リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定

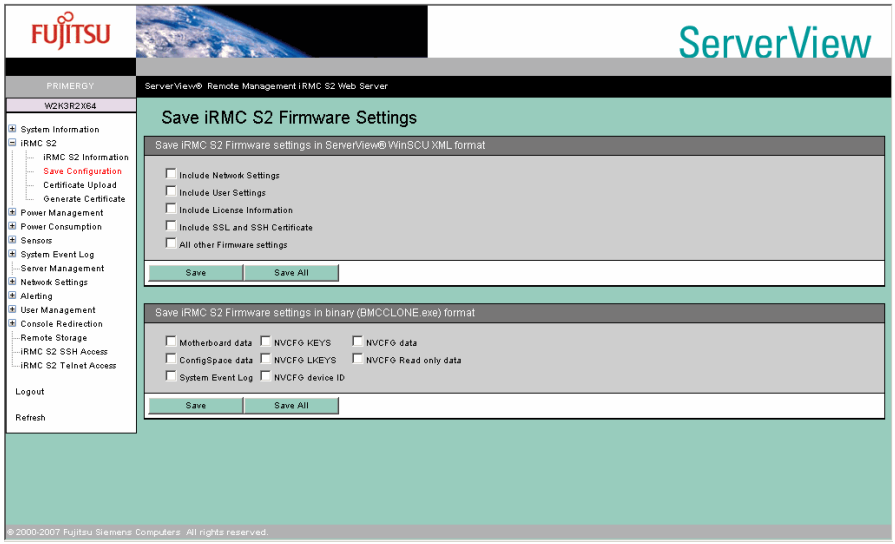
項目	説明
License Key	マネジメントコントローラのライセンスキーを操作します。
［Upload］	リモートマネジメントコントローラのライセンスを承認します。ライセンスが承認されると Video Redirection、Remote Storage 機能が使用可能になります。

POINT

- ライセンスキー、およびライセンスの設定方法の詳細はリモートマネジメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。ライセンスが承認されていない状態では Video Redirection、Remote Storage 機能が使用できません。
  それぞれの機能については、「4.11.2 Advanced Video Redirection」（→ P.75）、「4.11.5 リモートストレージ接続」（→ P.81）を参照してください。

4.2.3 Save iRMC S2 Firmware Settings

リモートマネジメントコントローラの設定情報データをバックアップします（V1.66A 以降）。



表：Save iRMC S2 Firmware Settings に表示される項目の説明

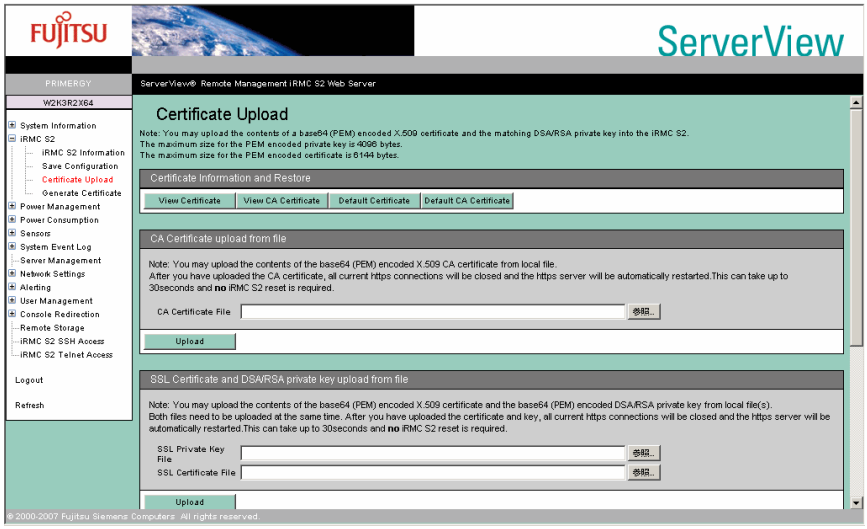
項目	説明
Save iRMC S2 Firmware settings in ServerView®WinSCU XML format	選択した項目を Windows 用 ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility でインポート可能な XML 形式でセーブします。
Save iRMC S2 Firmware settings in binary (BMCCLONE.exe) format	選択した項目を BMCCLONE.exe ツールでインポート可能なバイナリ形式でセーブします。未サポートです。

POINT

- BMCCLONE.exe ツールは保守作業者向けツールです。一般には提供されません。

4.2.4 Certificate Upload

リモートマネジメントコントローラの認証データをアップロードします（V1.66A 以降）。



表：Certificate Upload に表示される項目の説明

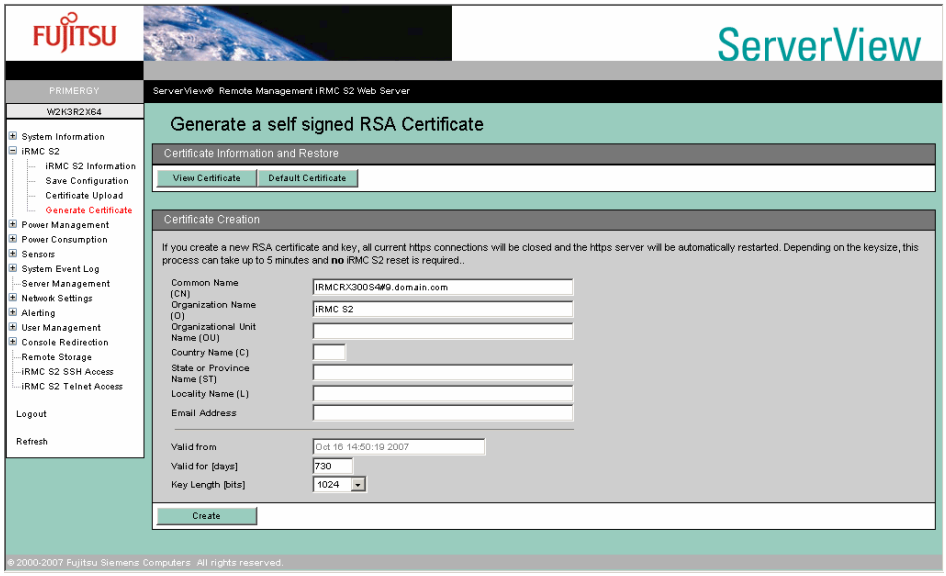
項目	説明
Certificate Information and Restore	
［View Certificate］	適用されている Web 証明書が表示されます。
［View CA Certificate］	適用されている認証局の証明書が表示されます（「iRMC S2」のみ）。
［Default Certificate］	デフォルトの Web 証明書に戻します。
［Default CA Certificate］	デフォルトの認証局の証明書に戻します（「iRMC S2」のみ）。
CA Certificate upload from file	認証局（CA）証明書を適用します（「iRMC S2」のみ）。
CA Certificate File	認証局（CA）証明書ファイルを指定します。［参照］をクリックすると、ファイルを選択できます。
［Upload］	認証局（CA）証明書を適用します。
Certificate and private key upload from file	公的認証機関や独自の認証機関で作成された Private Key ファイル、および証明書ファイルを適用します。
Private Key File	Private Key ファイルを指定します。［参照］をクリックすると、ファイルを選択できます。
Certificate File	証明書ファイルを指定します。［参照］をクリックすると、ファイルを選択できます。
［Upload］	Private Key、および証明書を適用します。適用には Private Key ファイル、証明書ファイルの両方が必要です。
Please paste your DSA/RSA certificate or DSA/RSA private key into the text area below!	「Private Key」、「証明書」をファイルではなく、データ形式で適用します。テキストボックスに「Private Key」、「証明書」を貼り付けてください。
［Upload］	テキストボックス内のデータを適用します。

POINT

- 認証局（CA）の証明書 Upload は未サポートです。
- 証明書の秘密鍵（Private Key）は暗号化なしの Key を使用してください。

4.2.5 Generate a self signed RSA Certificate（「iRMC S2」のみ）

リモートマネジメントコントローラで RSA 認証データを取得します。



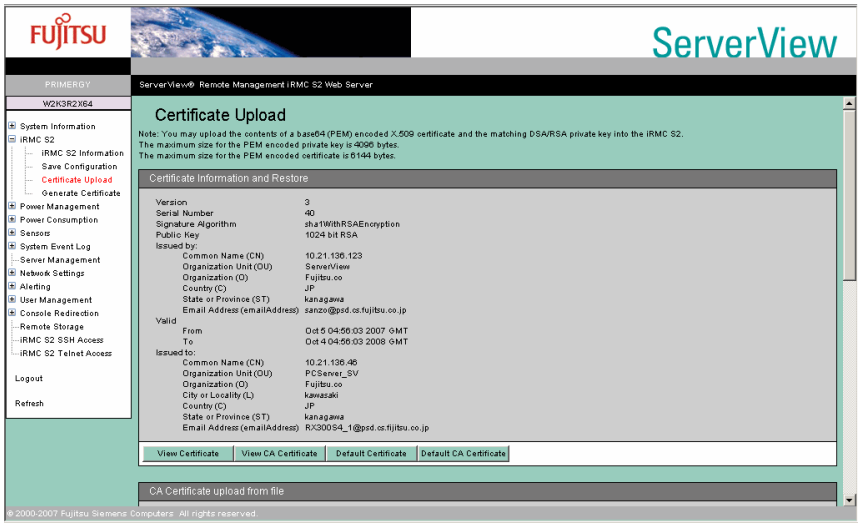
表：Generate a self signed RSA Certificate に表示される項目の説明

項目	説明
Certificate Information and Restore	証明書の情報とリストア
［View Certificate］	現在設定されている認証 RSA データが表示されます。
［Default Certificate］	認証 RSA データをデフォルト設定に戻します。
Certificate Creation	証明書を作成します。認証機関が使用できない場合、iRMC 内で証明書を作成します。
Common Name（CN）	iRMC のアクセス名を指定します（ドメイン込みで指定）。
Organization Name （O）	組織（会社）名を指定します。例：FUJITSU
Organizational Unit Name（OU）	所属名を指定します。例：Solution Center
Country Name （C）	国を指定します。日本は「JP」、アメリカは「US」など 2 字で指定します。
State or Province Name（ST）	州（県）名を指定します。
Locality Name （L）	都市名を指定します。
Email Address	E-Mail アドレスを指定します。
Valid from	証明書の有効開始日です。指定できません。
Valid for ［days］	証明書の有効期間（日）を指定します。デフォルトは 730 日（2 年）です。
Key Length ［bits］	暗号化のキー長（Bit 長）を指定します。デフォルトは 1024Bit です。
［Create］	上記指定内容で証明書を作成します。作成には 5 分程度かかります。作成後は自動的に iRMC S2 へ適用されます。

POINT

- 「Common Name（CN）」、「Valid for［days］」、「Key Length［bits］」の設定だけでも証明書を作成することができます。

［View Certificate］をクリックすると、現在設定されている認証 RSA データが以下のとおり表示されます。

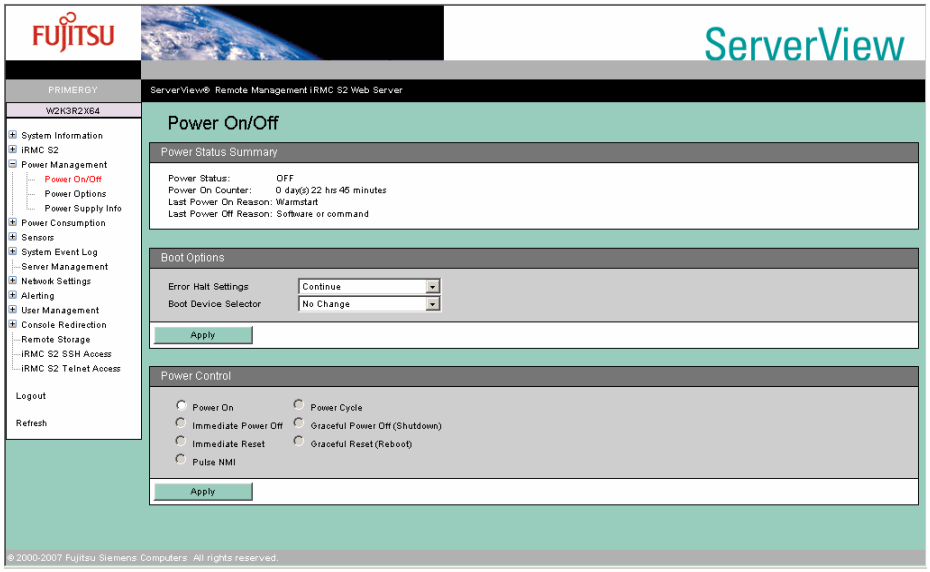


4.3 Power Management

サーバの電源に関する設定を行います。

4.3.1 Power On/Off

サーバの電源の ON/OFF、再起動などの設定を行います。



表：Power On/Off に表示される項目の説明

項目		説明
Power Status Summary		現在の電源状態が表示されます。
	Power Status	現在のサーバの電源状態が On/Off で表示されます。
	Power On Counter	サーバの電源状態が「On」になってから現在までの、総稼働時間が表示されます。
	Last Power On Reason	前回のサーバの電源投入要因が表示されます。
	Last Power Off Reason	前回のサーバの電源切断要因が表示されます。

表：Power On/Off に表示される項目の説明

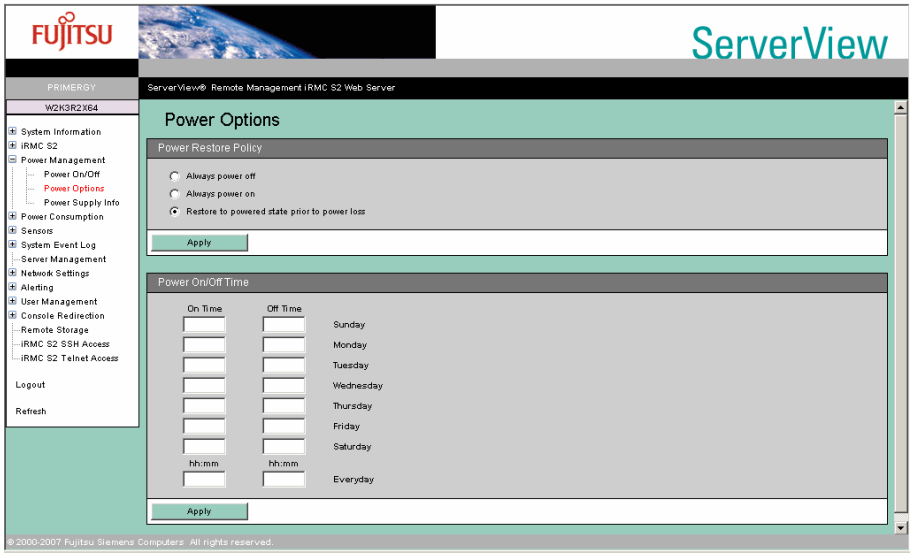
項目		説明
Boot Options		サーバ起動時の設定を行います。
	Error Halt Settings	起動時にエラーが発生した場合のサーバの対応動作を設定します。設定値は以下のとおりです。リストから選択します。 ・Continue 起動時にエラーが発生しても、起動処理を続けます。 ・Halt on errors 起動時にエラーが発生すると、オペレータの介入があるまで起動を停止します。
	Boot Device Selector	起動するデバイスを選択します。設定値は以下のとおりです。リストから選択します（「iRMC S2」のみ）。 ・No Change BIOS に設定されているデバイスを使用します。 ・PXE/iSCSI PXE/iSCSI 装置より起動します。 ・Hard-drive ハードディスク装置より起動します。 ・CDROM/DVD CD-ROM/DVD 装置より起動します。 ・Floppy フロッピーディスクより起動します。
Power Control		サーバの電源制御を行います。各項目の動作は以下のとおりです。 ・Power On サーバの電源が入ります。 ・Immediate Power Off システム情報などを保存せずに、ただちにサーバの電源が切断されます。 ・Immediate Reset システム情報などを保存せずに、ただちにサーバがリセットされます。 ・Power Cycle システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断され、その直後に電源が投入されます。 ・Graceful Power Off（Shutdown） システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断されます。 ・Graceful Reset（Reboot） システム情報などを保存してから、サーバの電源がリセットされます。 ・Pulse NMI NMI 信号を発行します。（V1.66A 以降）

POINT

- 「Pulse NMI」は NMI がサポートされている装置でのみ動作します。

4.3.2 Power Options

AC 電源復帰時の動作設定、およびサーバの自動電源投入、自動電源切断のスケジュール設定を行います（V1.66A 以降）。

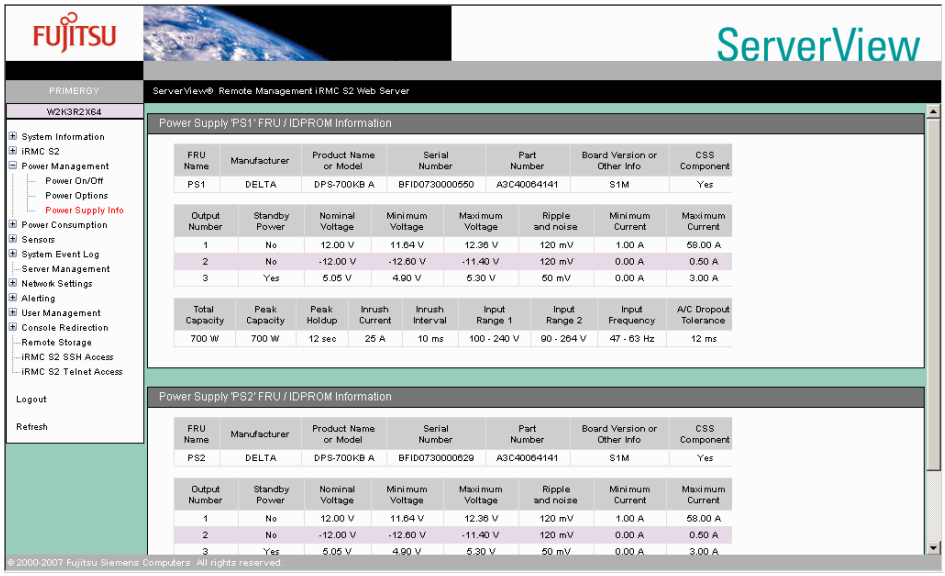


表：Power Options に表示される項目の説明

項目	説明
Power Restore Policy	停電などによってサーバの電源断が起こった場合の、電源復旧時の動作を設定します。 ・Always power off サーバは電源復旧の動作を行いません。 ・Always power on サーバは自動で電源復旧の動作を行います。 ・Restore to powered state prior to power loss サーバの電源断が起こる直前の状態に戻します。 サーバの電源断前の状態が「On」：自動で電源復旧の動作を行います。 サーバの電源断前の状態が「Off」：電源復旧の動作を行わず、電源断の状態を維持します。
Power On/Off Time	サーバが自動で行う電源投入の時刻と電源切断の時刻を、1 週間単位で設定します。

4.3.3 Power Supply Information（「iRMC S2」のみ）

サーバに接続されている Power Supply（電源装置）の情報を参照します。



表：Power Supply Information に表示される項目の説明

項目		説明
Power Supply 'PSx' FRU / IDPROM Information		電源装置 'PSx' に関する情報が表示されます。
	FRU Name	サーバに定義されている電源装置名が表示されます。
	Manufacturer	製造会社が表示されます。
	Product Name or Model	個体名またはモデル名が表示されます。
	Serial Number	シリアル番号が表示されます。
	Part Number	部品番号が表示されます。
	CSS Component	ユーザ交換の可／不可が表示されます。
	Output Number	出力ケーブル番号が表示されます。
	Standby Power	待機電力の有／無が表示されます。
	Nominal Voltage	定格出力電圧が表示されます。
	Minimum Voltage	最小出力電圧が表示されます。
	Maximum Voltage	最大出力電圧が表示されます。
	Ripple and noise	出力値の誤差が表示されます。
	Minimum Current	最小出力電流が表示されます。
	Maximum Current	最大出力電流が表示されます。
	Total Capacity	出力許容電力が表示されます。
	Peak Capacity	最高出力電力が表示されます。
	Peak Holdup	最高出力の継続可能時間が表示されます。
	Inrush Current	出力電流が表示されます。
	Inrush Interval	出力電流のインターバルが表示されます。
	Input Range 1	入力電力の範囲 1 が表示されます。

表：Power Supply Information に表示される項目の説明

項目		説明
	Input Range 2	入力電力の範囲 2 が表示されます。
	Input Frequency	入力電力の周波数が表示されます。
	A/C Dropout Tolerance	瞬断に対する耐性が表示されます。

POINT

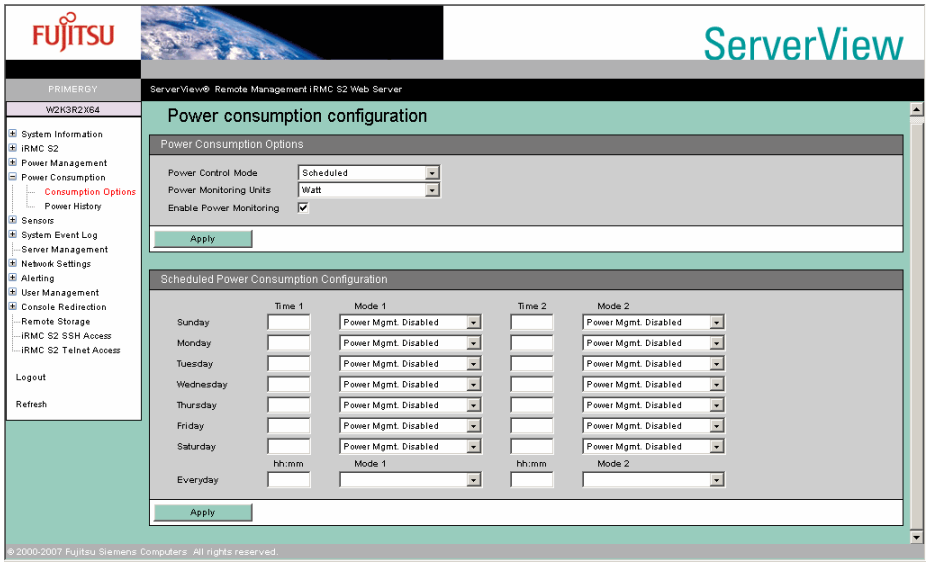
- 「Power Supply Information」は電源装置の種類によっては表示されない項目があります。

4.4 Power Consumption

サーバの消費電力に関する設定を行います。

4.4.1 Power consumption configuration（「iRMC S2」のみ）

サーバの消費電力に関する設定を行います。



表：Power consumption configuration に表示される項目の説明

項目		説明
Power Consumption Options		サーバの消費電力に対する設定を行います。
	Power Control Mode	サーバの消費電力に対する動作を設定します。 ・Power Mgmt. Disabled 消費電力に対する特別な動作は行いません。 ・Best Performance 消費電力にかかわらず性能が最大となる動作にします。 ・Minimum Power 消費電力を最も抑える動作にします。 ・Scheduled 曜日、時間単位で動作を切り替えるスケジュールを有効にします。
	Power Monitoring Units	消費電力モニタリングを行う場合の電力表示単位を指定します。 ・Watt 消費電力をワット単位で表示します。 ・BTU/h 消費電力を英熱量（British Thermal Unit）単位で表示します。
	Enable Power Monitoring	消費電力をモニタリングします。
Scheduled Power Consumption Configuration		「Power Control Mode」で「Scheduled」を選択した場合、この項目でのスケジュール設定が有効になります。 設定方法については、「■ Scheduled Power Consumption Configuration 設定」（→ P.41）を参照してください。

POINT

- モニタリング機能のないサーバでは「Power Monitoring Units」、「Enable Power Monitoring」の項目は表示されません。

■ Scheduled Power Consumption Configuration 設定

「Power Control Mode」で「Scheduled」を設定した場合、曜日ごと、もしくは各曜日 2 回までの消費電力に対する動作スケジュールが設定できます。

1 設定を行いたい曜日の「Time 1」、または「Time 2」に動作を開始する時刻を入力します。

2 入力した時刻に開始される動作を「Mode 1」、または「Mode 2」で選択します。

選択できる動作は「 Power Control Mode」（→ P.40）と同じです（Scheduled は除く）。

3 ［Apply］をクリックします。

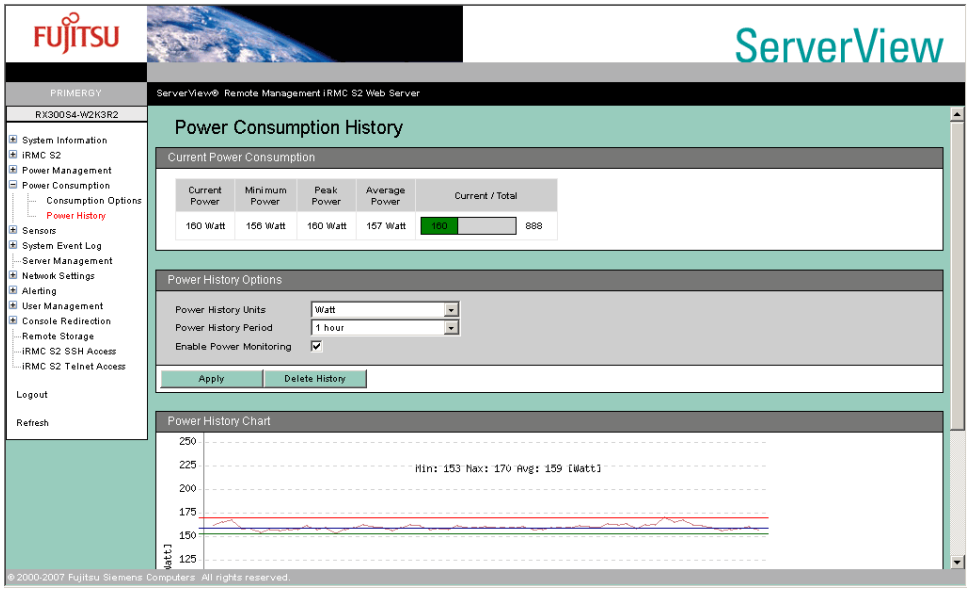
設定内容が適用され、設定した曜日の設定した時刻に、選択した動作が開始されます。

POINT

- 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。
- Time1 と Time2 に同じ時刻を設定した場合、Time2 の動作となります。
- すべての曜日に同じ設定を行いたい場合、「Everyday」に設定するとすべての曜日に反映されます。
- 設定を無効にする場合は、入力してある設定時刻を消して、［Apply］をクリックしてください。

4.4.2 Power Consumption History（「iRMC S2」のみ）

サーバの消費電力モニタリング結果を表示します。
消費電力モニタリング機能がない装置ではこの項目は表示されません。



表：Power Consumption History に表示される項目の説明

項目		説明
Current Power Consumption		現在の消費電力量を表示します。
	Current Power	現在の消費電力量です。
	Minimum Power	現在の最小電力量です。
	Peak Power	現在の最大電力量です。
	Average Power	現在の平均電力量です。
	Current / Total	現在の消費電力量／最大消費電力量です。
Power History Options		Power History Chart　の表示設定を行います。
	Power History Units	消費電力モニタリングを行う場合の電力表示単位を指定します。 ・Watt 消費電力をワット単位で表示します。 ・BTU/h 消費電力を英熱量（British Thermal Unit）単位で表示します。
	Power History Period	Power History Chart の横軸（表示期間）の設定を行います。
	Enable Power Monitoring	消費電力をモニタリングします。
	［Delete History］	モニタリングしたデータを消去します。
Power History Chart		モニタリングした消費電力をグラフ表示します。 グラフの見方については、「● Power History Chart の見方」（→ P.43）を参照してください。

● Power History Chart の見方

モニタリングした消費電力をグラフ表示します。

表：Power History Chart の見方

項目	説明
縦軸	「Power History Units」で設定した単位が表示されます。
横軸	「Power History Period」で設定した表示期間が表示されます。
茶線	消費電力量の変遷を表します。
緑線	表示期間内の最小消費電力量を表します。
赤線	表示期間内の最大消費電力量を表します。
青線	表示期間内の平均消費電力量を表します。

POINT

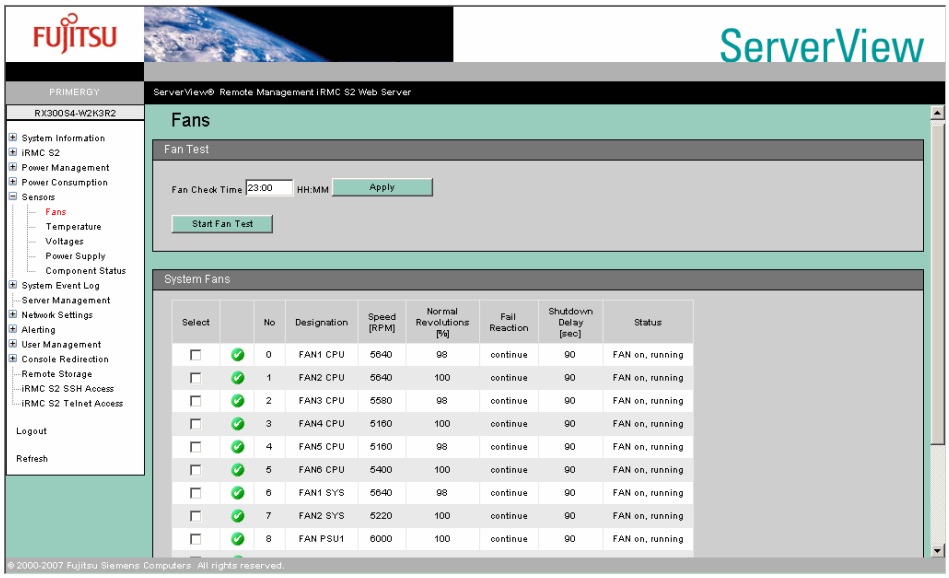
- 本機能で表示される消費電力量は 20% 程度の誤差を含む可能性があります。

4.5 Sensors

サーバに搭載されたファン、温度センサ、電圧および電源ユニットの状態を参照できます。

4.5.1 Fans

サーバに搭載された各種ファン（CPU ファン、システムファン）の状態表示と異常時の動作設定を行います。



表：Fans に表示される項目の説明

項目	説明
Fan Test	ファンの動作状態を調査する定時刻を設定します。「Fan Check Time」にファンの動作状態を調査する時刻を入力します。 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。
［Start Fan Test］	クリックすると、ただちに現在のファンの動作状態を調査します。

表：Fans に表示される項目の説明

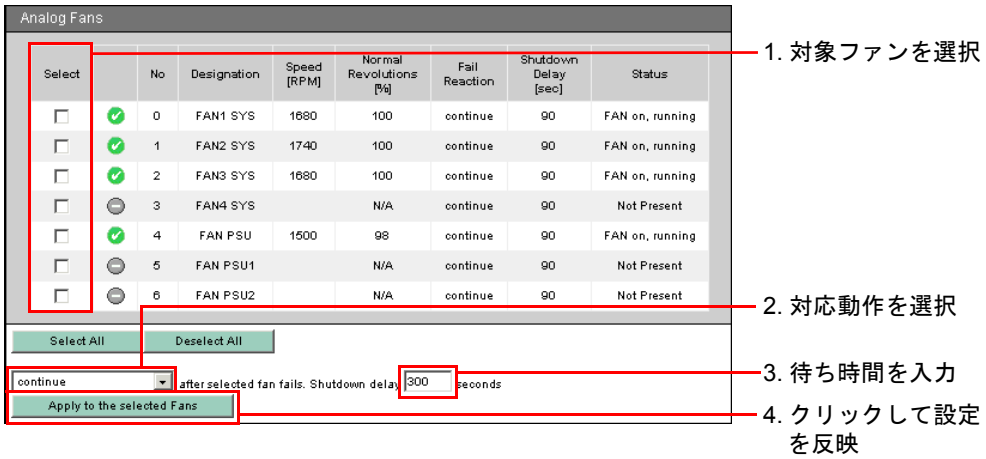
項目		説明
Analog Fans		現在のファンの状態が表示されます。また、ファンに異常が発生した場合の、システムの動作を設定します。
	Select	異常が発生した場合の対応動作を設定するファンを選択します。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.46）を参照してください。
	No	ファンの通し番号が表示されます。
	Designation	ファンのセンサ名が表示されます。
	Speed	現在のファン回転数が、RPM 形式で表示されます。
	Normal Revolutions	前回にファンの動作状態を調査したときの回転数を基準（100）にして、現在のファンの回転数との割合が表示されます。単位は%です。
	Fail Reaction	ファンに異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.46）を参照してください。
	Shutdown Delay	ファンに異常が発生した時間から、システムが対応を開始するまでの待ち時間が、秒単位で表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.46）を参照してください。
	Status	現在のファンの状態（搭載／非搭載、稼動中／停止中、Power Off）が表示されます。

POINT

- ファンの電源が切断されているなどの理由により、ファンの情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

■ ファンに異常が発生した場合の動作設定

ファンに異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。



1 「Select」欄から、設定対象のファンのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- このとき、［Select All］をクリックすると、表示されているすべてのファンが選択できます。また、［Deselect All］をクリックすると、現在選択しているすべてのファンの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「continue」または「shutdown-and-power-off」を選択します。

表：ファン動作設定項目

動作	説明
continue	ファンの異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
shutdown-and-power-off	ファンの異常を検知した場合は、設定した待ち時間（この待ち時間は、次の手順で設定します）が経過するまでは、システムはそのまま動作を続けます。そのあと、待ち時間を経過しても異常から復旧しない場合は、システムは自動でシャットダウンを行います。

3 システムがファン異常への対応を開始するまでの、待ち時間を入力します。

単位は「秒」です。0 ～ 300 までの数値を入力できます。

4 ［Apply to the selected Fans］をクリックして、各設定値を反映させます。

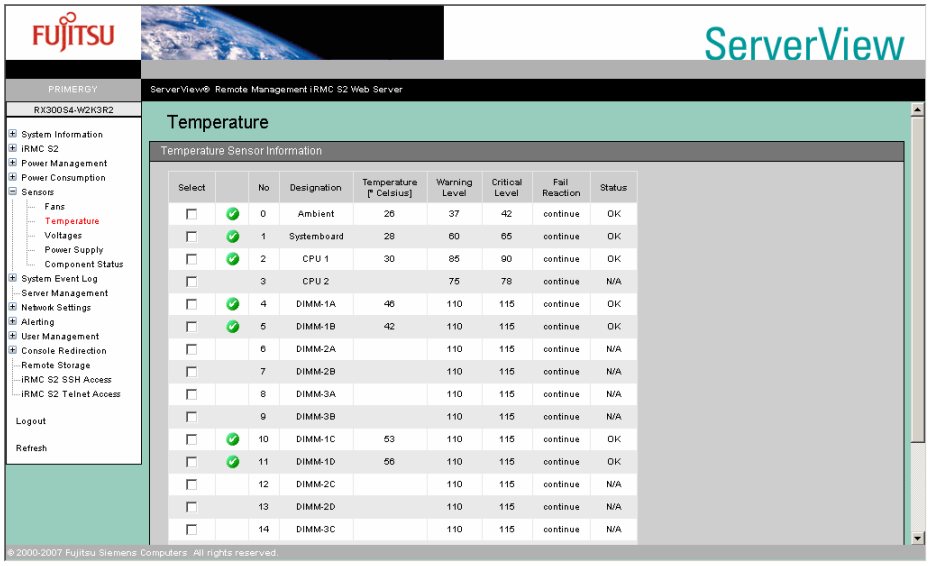
画面上の各項目で、設定値が反映されたことを確認してください。

・対応動作の設定→「Fail Reaction」欄

・待ち時間の設定→「Shutdown Delay」欄

4.5.2 Temperature

サーバ内の各温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。



Select		No	Designation	Temperature [° Celsius]	Warning Level	Critical Level	Fail Reaction	Status
☐	✔	0	Ambient	26	37	42	continue	OK
☐	✔	1	Systemboard	28	60	65	continue	OK
☐	✔	2	CPU 1	30	85	90	continue	OK
☐		3	CPU 2		75	78	continue	N/A
☐	✔	4	DIMM-1A	46	110	115	continue	OK
☐	✔	5	DIMM-1B	42	110	115	continue	OK
☐		6	DIMM-2A		110	115	continue	N/A
☐		7	DIMM-2B		110	115	continue	N/A
☐		8	DIMM-3A		110	115	continue	N/A
☐		9	DIMM-3B		110	115	continue	N/A
☐	✔	10	DIMM-1C	53	110	115	continue	OK
☐	✔	11	DIMM-1D	56	110	115	continue	OK
☐		12	DIMM-2C		110	115	continue	N/A
☐		13	DIMM-2D		110	115	continue	N/A
☐		14	DIMM-3C		110	115	continue	N/A

表：Temperature に表示される項目の説明

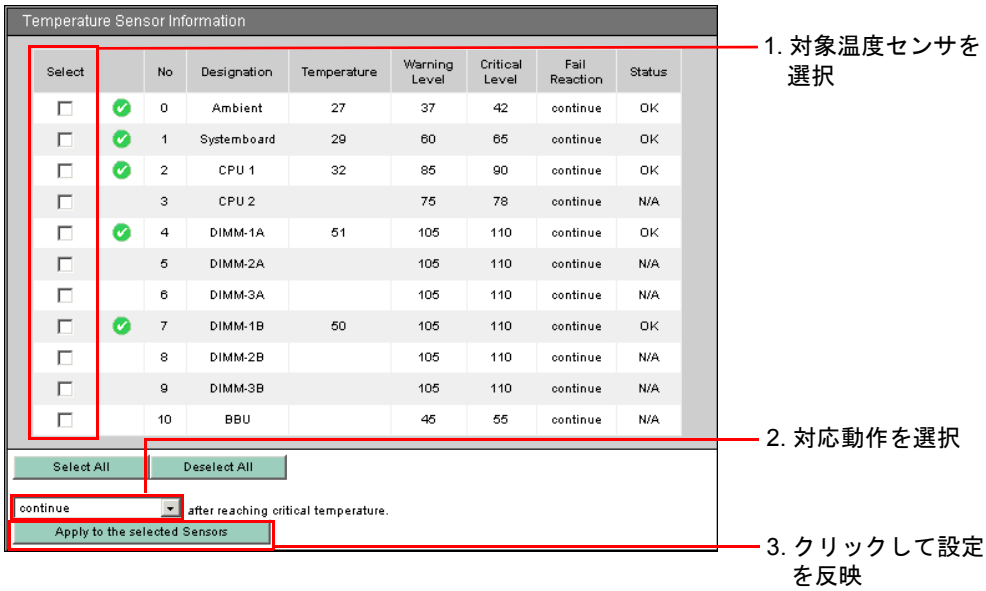
項目	説明
Temperature Sensor Information	現在の温度センサの状態が表示されます。また、温度異常が発生した場合のシステムの動作を設定します。
Select	温度異常が発生した場合、対応動作を設定する温度センサを、チェックボックスにチェックをつけて選択します。対応動作の設定方法は、「■ 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.48）を参照してください。
No	温度センサの通し番号が表示されます。
Designation	温度センサ名が表示されます。
Temperature	現在の温度値が表示されます。
Warning Level	警告レベルの温度値が表示されます。
Critical Level	異常レベルの温度値が表示されます。
Fail Reaction	温度異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「■ 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.48）を参照してください。
Status	現在の温度値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません ・N/A：未接続 ・Warning：警告 ・Critical：異常 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- 温度情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

■ 温度異常が発生した場合の動作設定

温度異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。



1 「Select」欄から、設定対象の温度センサのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- このとき、[Select All] をクリックすると、表示されているすべての温度センサが選択できます。また、[Deselect All] をクリックすると、現在選択しているすべての温度センサの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「continue」または「shutdown-and-power-off」を選択します。

表：温度センサ動作設定項目

動作	説明
continue	温度異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
shutdown-and-power-off	温度異常を検知した場合は、システムが自動でシャットダウンを行います。

3 [Apply to the selected Sensors] をクリックして、設定値を反映させます。

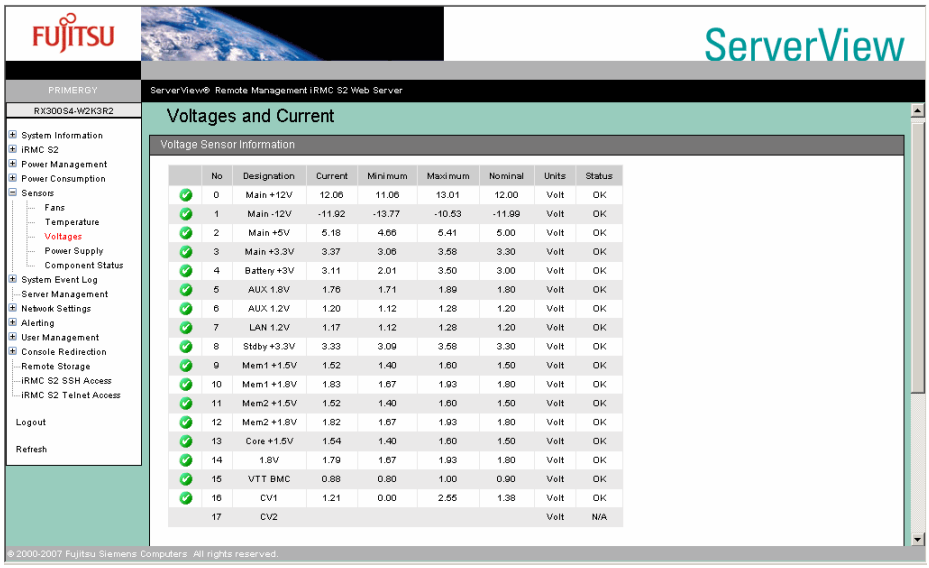
「Fail Reaction」欄で、設定値が反映されたことを確認してください。

POINT

- 温度異常時における、対応動作までの待ち時間の設定はありません。異常を検知した場合、ただちに対応動作を行います。

4.5.3 Voltages and Current

サーバ内の各電圧値を参照します。



	No	Designation	Current	Minimum	Maximum	Nominal	Units	Status
✓	0	Main +12V	12.06	11.06	13.01	12.00	Volt	OK
✓	1	Main -12V	-11.92	-13.77	-10.53	-11.99	Volt	OK
✓	2	Main +5V	5.18	4.66	5.41	5.00	Volt	OK
✓	3	Main +3.3V	3.37	3.06	3.58	3.30	Volt	OK
✓	4	Battery +3V	3.11	2.01	3.50	3.00	Volt	OK
✓	5	AUX 1.8V	1.76	1.71	1.89	1.80	Volt	OK
✓	6	AUX 1.2V	1.20	1.12	1.28	1.20	Volt	OK
✓	7	LAN 1.2V	1.17	1.12	1.28	1.20	Volt	OK
✓	8	Stdby +3.3V	3.33	3.09	3.58	3.30	Volt	OK
✓	9	Mem1 +1.5V	1.52	1.40	1.60	1.50	Volt	OK
✓	10	Mem1 +1.8V	1.83	1.67	1.93	1.80	Volt	OK
✓	11	Mem2 +1.5V	1.52	1.40	1.60	1.50	Volt	OK
✓	12	Mem2 +1.8V	1.82	1.67	1.93	1.80	Volt	OK
✓	13	Core +1.5V	1.54	1.40	1.60	1.50	Volt	OK
✓	14	1.8V	1.79	1.67	1.93	1.80	Volt	OK
✓	15	VTT BMC	0.88	0.80	1.00	0.90	Volt	OK
✓	16	CV1	1.21	0.00	2.55	1.38	Volt	OK
	17	CV2					Volt	N/A

表：Voltages に表示される項目の説明

項目		説明
Voltage Sensor Information		電圧センサに関する情報です。
	No	電圧センサの通し番号が表示されます。
	Designation	電圧センサ名が表示されます。
	Current	現在の電圧値が表示されます。
	Minimum	許容最小電圧値が表示されます。
	Maximum	許容最大電圧値が表示されます。
	Nominal	規定された電圧値が表示されます。
	Status	現在の電圧値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません ・N/A：未接続またはデジタルセンサ（ON/OFF のみ） ・Upper-Warning：上限警告 ・Lower-Warning：下限警告 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

表：Voltages に表示される項目の説明

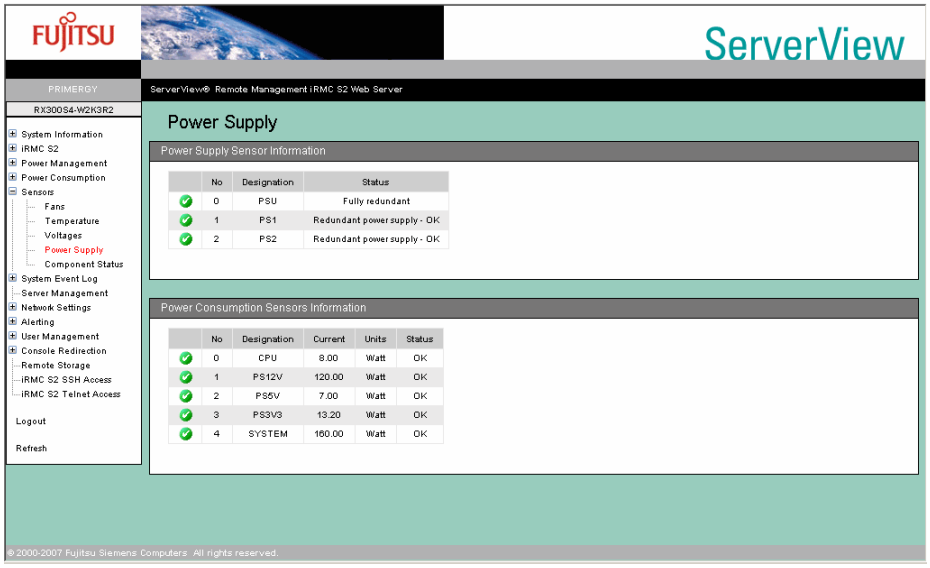
項目		説明
Current Sensor Information		電流センサに関する情報です。
	No	電流センサの通し番号が表示されます。
	Designation	電流センサ名が表示されます。
	Current	現在の電流値が表示されます。
	Minimum	許容最小電流値が表示されます。
	Maximum	許容最大電流値が表示されます。
	Nominal	規定された電流値が表示されます。
	Status	現在の電流値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません ・N/A：未接続またはデジタルセンサ（ON/OFF のみ） ・Upper-Warning：上限警告 ・Lower-Warning：下限警告 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- 「Voltages」では、異常時におけるシステムの対応動作の設定はありません。
- 「Current Sensor Information」は、ハードウェアでサポートされていない機種では表示されません。

4.5.4 Power Supply

サーバに搭載されている電源ユニット（PSU）の状態を参照します。



表：Power Supply に表示される項目の説明

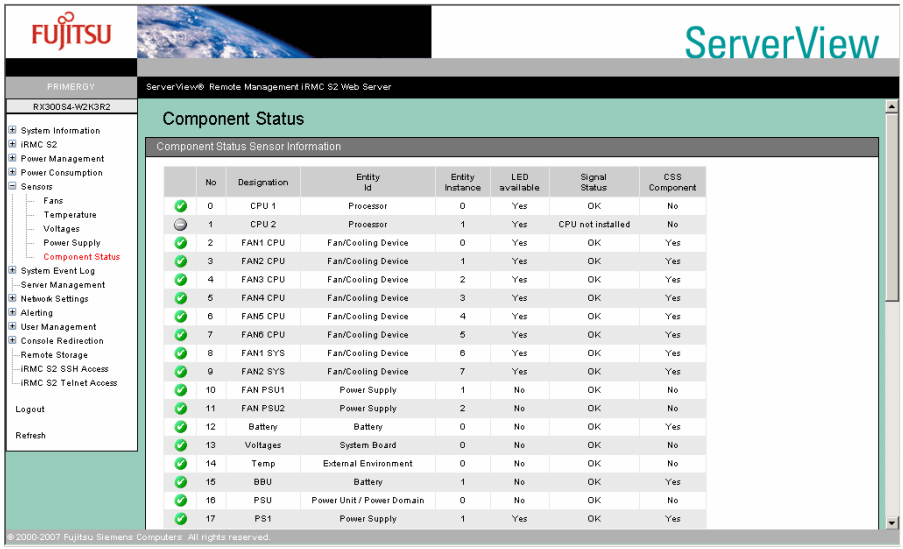
項目		説明
Power Supply Sensor Information		電源ユニットセンサの情報が表示されます。
	No	電源ユニットの通し番号が表示されます。
	Designation	電源ユニット名が表示されます。
	Status	電源ユニットの状態が表示されます。
Power Consumption Sensors Information		消費電力センサの情報が表示されます。 **注意事項：** ▶ 消費電力センサがない装置では当項目は表示されません。
	No	消費電力センサの通し番号が表示されます。
	Designation	消費電力センサの監視対象が表示されます。
	Current	現在の消費電力量が表示されます。
	Units	表示される各消費電力の単位です。
	Status	電力消費状態が表示されます。

POINT

▶ 電源ユニットが冗長構成の場合、冗長の状態を示すセンサも表示されます。

4.5.5 Component Status

サーバ内の各センサの状態を表示します。



	No	Designation	Entity Id	Entity Instance	LED available	Signal Status	CSS Component
✔	0	CPU 1	Processor	0	Yes	OK	No
●	1	CPU 2	Processor	1	Yes	CPU not installed	No
✔	2	FAN1 CPU	Fan/Cooling Device	0	Yes	OK	Yes
✔	3	FAN2 CPU	Fan/Cooling Device	1	Yes	OK	Yes
✔	4	FAN3 CPU	Fan/Cooling Device	2	Yes	OK	Yes
✔	5	FAN4 CPU	Fan/Cooling Device	3	Yes	OK	Yes
✔	6	FAN5 CPU	Fan/Cooling Device	4	Yes	OK	Yes
✔	7	FAN6 CPU	Fan/Cooling Device	5	Yes	OK	Yes
✔	8	FAN1 SYS	Fan/Cooling Device	6	Yes	OK	Yes
✔	9	FAN2 SYS	Fan/Cooling Device	7	Yes	OK	Yes
✔	10	FAN PSU1	Power Supply	1	No	OK	No
✔	11	FAN PSU2	Power Supply	2	No	OK	No
✔	12	Battery	Battery	0	No	OK	Yes
✔	13	Voltages	System Board	0	No	OK	No
✔	14	Temp	External Environment	0	No	OK	No
✔	15	BBU	Battery	1	No	OK	Yes
✔	16	PSU	Power Unit / Power Domain	0	No	OK	No
✔	17	PS1	Power Supply	1	Yes	OK	Yes

表：Component Status Sensor Information に表示される項目の説明

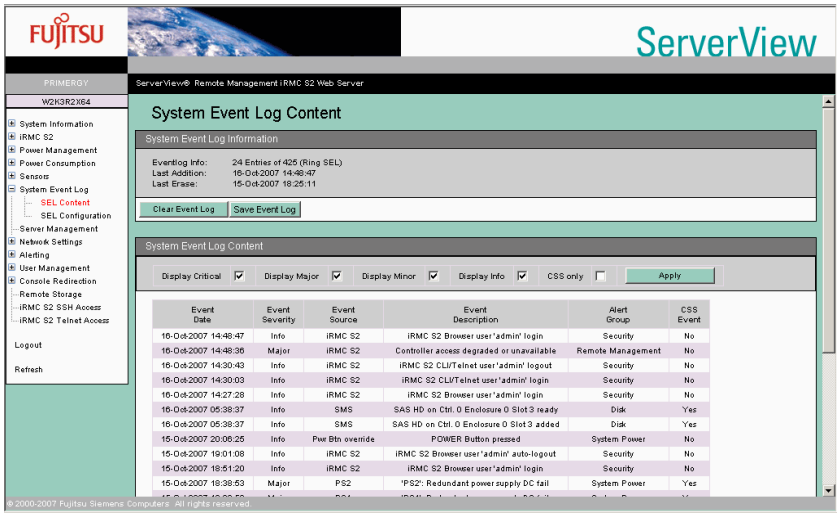
項目	説明
Component Status Sensor Information	
No	センサの通し番号が表示されます。
Designation	センサ名が表示されます。
Entity Id	センサの種類が表示されます。
Entity Instance	センサの種類別における、通し番号が表示されます。
LED available	センサ LED の点灯状況が表示されます。
Signal Status	センサの状態が表示されます。
CSS Component	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます（「iRMC S2」のみ）。

4.6 System Event Log

サーバのシステムイベントログの表示、および表示設定を行います。

4.6.1 System Event Log Content

ベースボード上に格納されるイベントログ（SEL）を参照します。



表：System Event Log Content に表示される項目の説明

項目		説明
System Event Log Information		イベントログに関する情報が表示されます
	Eventlog Info	現在のイベントログ数が表示されます。
	Last Addition	最後にログされた日時が表示されます。
	Last Erase	イベントログがクリアされた日時が表示されます。
	［Clear Event Log］	すべてのシステムイベントログがクリアされます。
	［Save Event Log］	システムイベントログを Text 形式で退避します（「iRMC S2」のみ）。

表：System Event Log Content に表示される項目の説明

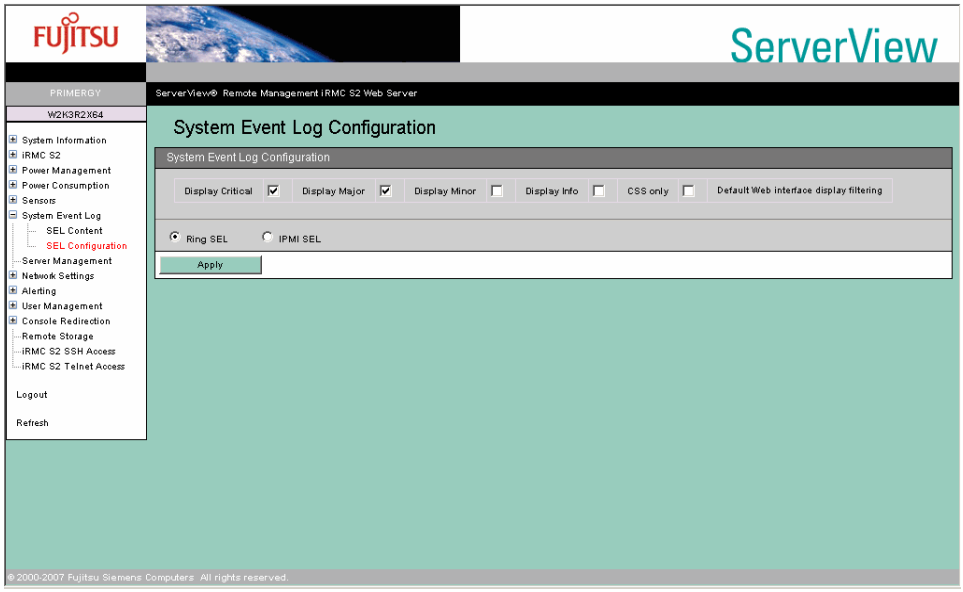
項目		説明
System Event Log Content		イベントログ一覧です。各項目（チェックボックス）を選択し［Apply］をクリックすると、選択した内容が表示されます。
	Display Critical	「Critical」レベルのイベントログを表示します（V1.66A 以降）。
	Display Major	「Major」レベルのイベントログを表示します（V1.66A 以降）。
	Display Minor	「Minor」レベルのイベントログを表示します（V1.66A 以降）。
	Display Info	「Information」レベルのイベントログを表示します（V1.66A 以降）。
	CSS only	「CSS」が有効なイベントログのみを表示します（「iRMC S2」のみ）。
	Event Date	イベントの発生日時が表示されます。
	Event Severity	イベントの重要度が表示されます。重要度は低い順から、Info / Minor / Major / Critical の 4 段階があります。
	Event Source	イベントの発生元が表示されます。
	Event Description	発生したイベント内容が表示されます。
	Alert Group	イベントの種別が表示されます（V1.66A 以降）。
	CSS Event	ユーザが交換可能なモジュールで発生したイベントであるか否かが表示されます（「iRMC S2」のみ）。

POINT

- システムイベントログの最大格納数は 256 ～ 512 個ほどで、サーバ（BIOS）により異なります。
- システムイベントログの格納方法（上書きなど）は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。

4.6.2 System Event Log Configuration

「4.6.1 System Event Log Content」（→ P.53）で表示させるシステムイベントログのデフォルト設定を行います（V1.66A 以降）。



表：System Event Log Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
System Event Log Configuration	イベントログ一覧です。各項目を選択します。
Display Critical	「Critical」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
Display Major	「Major」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
Display Minor	「Minor」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
Display Info	「Information」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
CSS only	「CSS」が有効なイベントログのみの表示をデフォルトで設定します（「iRMC S2」のみ）。
Ring SEL	Ring SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。
IPMI SEL	IPMI SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。

POINT

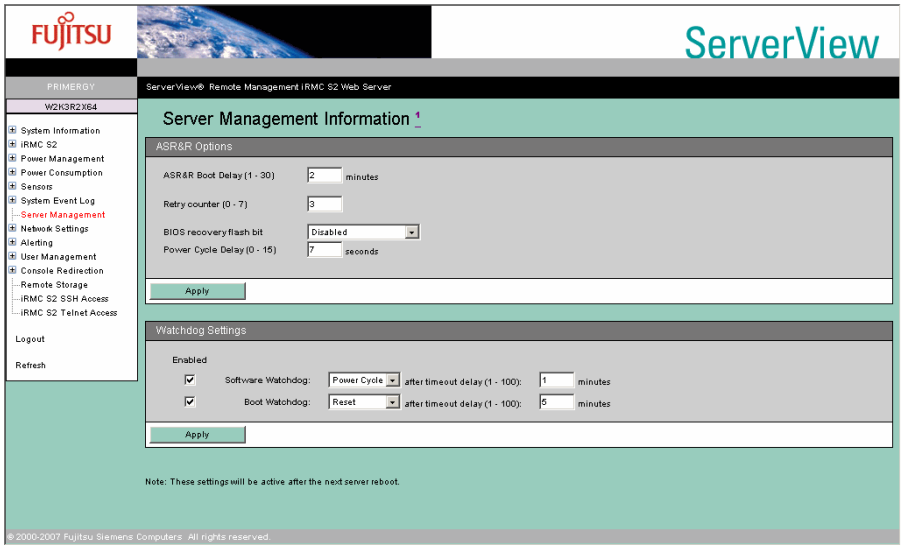
- SEL Configuration で設定した内容は iRMC へのログイン時に反映されます。

4.7 Server Management Information

サーバ管理情報の表示と設定を行います。

POINT

- サーバによっては、設定できる内容に制約がある場合があります。詳細はサーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。



表：Server Management Information に表示される項目の説明

項目		説明
ASR&R Options		サーバの再起動に関する設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
	ASR & R Boot Delay	ファン異常、または温度異常によるシャットダウンが行われた後、ここで設定した時間（単位：分）が経過すると、サーバは自動で電源を投入します。ただし、「Retry Counter」の設定値が 0 の場合は、「Action with retry counter zero」の設定に従った動作を行います。
	Action with retry counter zero	「Retry counter」が「0」の場合の動作を設定します。 ・Power Off サーバは電源投入を行いません。電源断の状態を維持します。 ・Start Diagnostic IDE Disk 診断システム HDD を起動します。未サポートです。 ・Boot PXE PXE 装置から起動します。 ・Boot iRMC Remote Image RemoteStorage（USB 指定）から起動します。

表：Server Management Information に表示される項目の説明

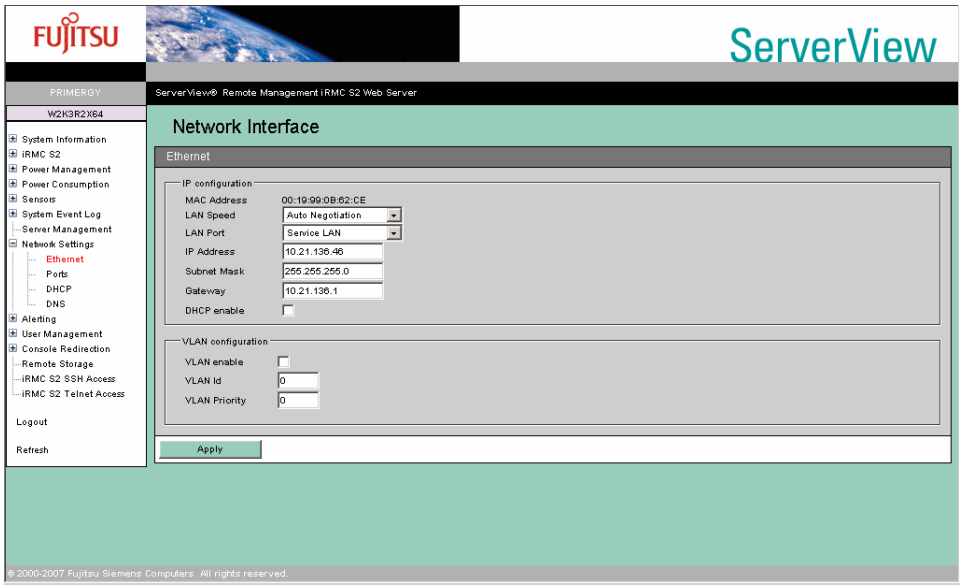
項目		説明
	Retry counter	異常が発生し、サーバがシャットダウンされた後の自動再起動回数を、0 ～ 7 の間で設定します。このカウンタ値は、ファン異常、温度異常、OS Watchdog Timeout、Boot Watchdog Timeout で再起動が行われるたびに、1 ずつ減少します。カウンタ値が 0 になると、サーバは「Action with retry counter zero」で設定した動作を行います。
	BIOS boot source for next boot	次回サーバ起動時の起動オプションを設定します。 ・Boot Option 通常の起動を行います。 ・Diagnostic System 診断システムメニューを起動します。未サポートです。
	BIOS recovery flash bit	BIOS の自動書き換えを設定します。 ・Enabled 自動書き換えを有効にします。BIOS 自動書き換えエリアに書き換え対象の BIOS イメージが設定されている場合、自動的に BIOS の書き換えが行われます。未サポートです。 ・Disabled 自動書き換えを無効にします。
	Power Cycle Delay	Power Cycle 実行時に、Power Off から Power On を行うまでの時間を 0 ～ 15（単位は秒）で設定します。
Watchdog Settings		指定した時間内に OS からの応答がない場合や、Boot が終了しなかった場合の動作を設定します。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
	Enabled	Software Watchdog ／ Boot Watchdog を有効にします。
	Software Watchdog	OS からの応答の有無監視をします。 ・Power Cycle タイムアウト時に、Power Off / On を行います。 ・Reset タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 ・Continue タイムアウト時に、何も行いません。
	Boot Watchdog	Boot（BIOS 終了後から OS が起動されるまで）の時間を監視します。 ・Power Cycle タイムアウト時に、Power Off / On を行います。 ・Reset タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 ・Continue タイムアウト時に、何も行いません。
	タイムアウト時間指定	1 ～ 100 まで指定できます（単位は分）。サーバ（BIOS）により、最大設定時間や指定できる値が異なります。

4.8 Network Settings

リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定の参照、変更を行います。

4.8.1 Network Interface

リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどの設定を行います。
ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。



表：Ethernet に表示される項目の説明

項目		説明
IP configuration		
	MAC Address	リモートマネジメントコントローラに搭載された、LAN の MAC アドレスが表示されます。
	LAN Speed	LAN 接続速度を設定します。 ・Auto Negotiation 接続速度を自動検出し、設定します。 ・100MBits/s Full Duplex 100M Bits/s 全二重で接続します。 ・100MBits/s Half Duplex 100MBits/s 半二重で接続します。 ・10MBits/s Full Duplex 10MBits/s 全二重で接続します。 ・10MBits/s Half Duplex 10MBits/s 半二重で接続します。

表：Ethernet に表示される項目の説明

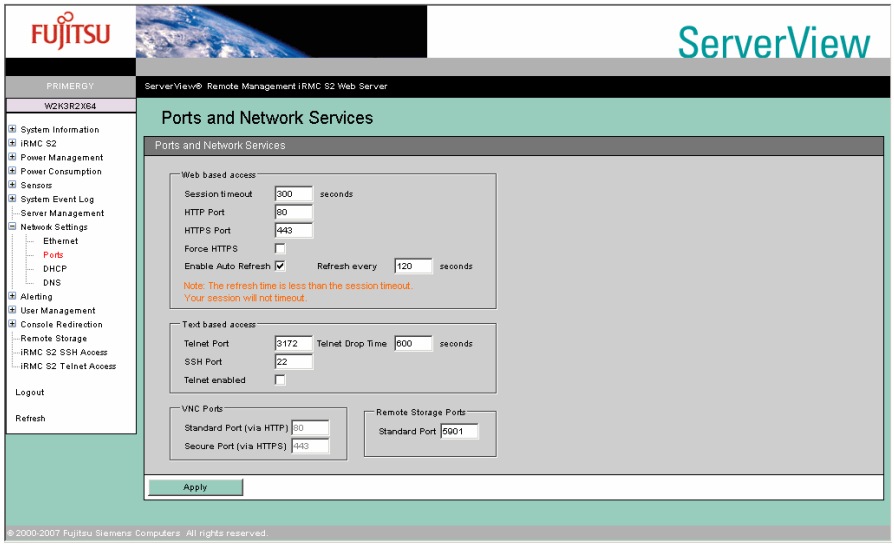
項目		説明
	LAN Port	iRMC S2 が使用する LAN ポートを指定します（「iRMC S2」のみ）。 ・Service LAN iRMC S2 専用 LAN ポートを使用します。 ・Shared LAN iRMC S2 とサーバの LAN ポートを共用します。
	IP Address	リモートマネジメントコントローラの IP アドレスを指定します。
	Subnet Mask	リモートマネジメントコントローラのサブネットマスクを指定します。
	Gateway	リモートマネジメントコントローラのゲートウェイアドレスを指定します。
	DHCP enable	リモートマネジメントコントローラの Ethernet 設定に DHCP を使用する場合に、チェックします。 設定を有効にすると、上記の設定値より DHCP が優先されるようになります。
VLAN configuration		
	VLAN enable	VLAN を使用する場合にチェックします。
	VLAN Id	VLAN の ID を設定します。
	VLAN Priority	VLAN のプライオリティを設定します。

重要

- VLAN の各項目に間違った値を設定すると、リモートマネジメントコントローラへの Web インターフェース、SSH、Telnet への接続ができなくなる場合があります。設定の際には、十分注意してください。

4.8.2 Ports and Network Services

各アクセスのポート番号の設定を行います。
空欄にすると、その項目は無効になります。



表：Ports and Network Services に表示される項目の説明

項目	説明
Web based access	
Session timeout	Web インターフェース接続の自動切断時間（秒）を設定します。デフォルトでは「300」に設定されています。
HTTP Port	HTTP へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「80」に設定されています。
HTTPS Port	HTTPS へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「443」に設定されています。
Force HTTPS	HTTPS 接続のみを有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「無効」に設定されています。
Enable Auto Refresh	自動リフレッシュを行う場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。
Refresh every	自動リフレッシュを行う場合の間隔（秒）を指定します。デフォルトでは「120」に設定されています。
Text based access	
Telnet Port	Telnet へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「3172」に設定されています。
Telnet Drop Time	Telnet 接続時の自動切断時間（秒）を指定します。デフォルトでは「600」に設定されています。
SSH Port	SSH 経由でアクセスを行う場合のポート番号を指定します。デフォルトでは「22」に設定されています。
Telnet enabled	Telnet 接続を有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。

表：Ports and Network Services に表示される項目の説明

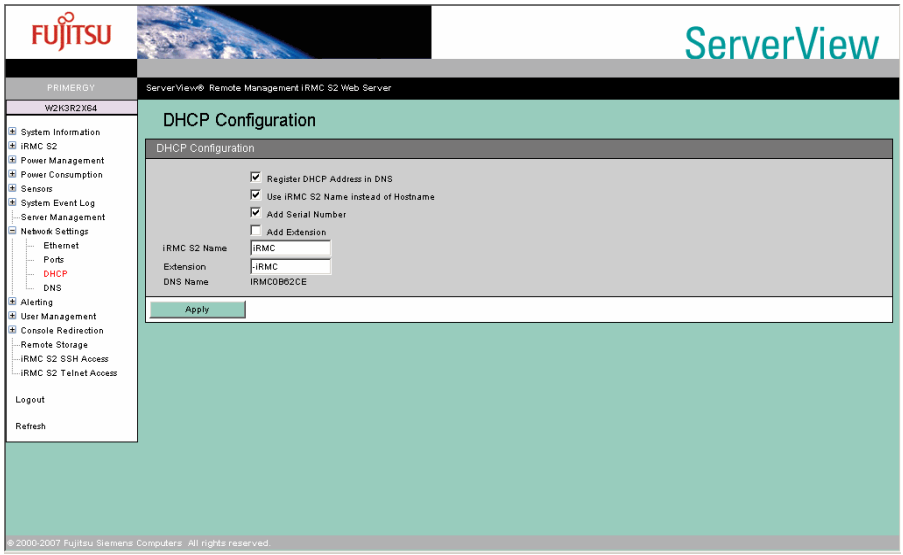
項目	説明
VNC Ports	
Standard Port	Video Redirection を行う場合のポート番号を表示します。 ・iRMC V1.66 以降 デフォルトは「5900」です（変更可）。 ・iRMC S2 デフォルトは「80」です（HTTP の設定ポートと連動）。 ・iRMC 上記以外 デフォルトは「5900」です（変更不可）。
Secure Port	Video Redirection で SSH/SSL を使用する場合のポート番号を表示します。 ・iRMC V1.66 以降 デフォルトは「5910」です（変更可）。 ・iRMC S2 デフォルトは「443」です（HTTP の設定ポートと連動）。 ・iRMC 上記以外 デフォルトは「5910」です（変更不可）。
Remote Storage Ports	
Standard Port	Video Redirection で Remote Storage を接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5901」です。

POINT

- 「Session timeout」の設定時間より「Refresh every」の設定時間が短い場合、Web インターフェース接続の自動切断は行われません。

4.8.3 DHCP Configuration

DHCP に関する設定を行います。



表：DHCP Configuration に表示される項目の説明

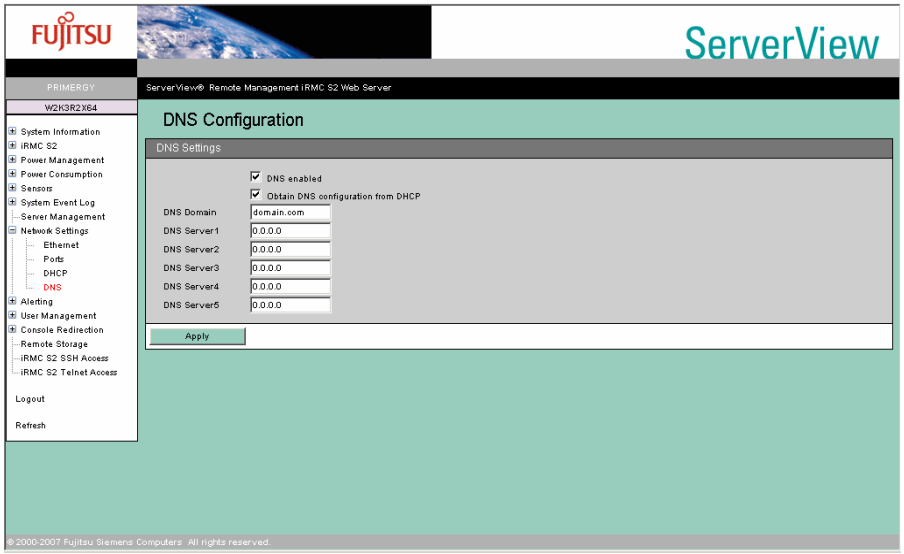
項目	説明
Register DHCP Address in DNS	有効に設定すると、DNS へ DHCP 取得アドレスを登録します。
Use iRMC S2 Name instead of Hostname	有効に設定すると、「iRMC S2 Name」ボックスに入力された文字を DNS 登録名として使用します。
Add Serial Number	有効に設定すると、DNS 登録名にシリアル番号を付加します。
Add Extension	有効に設定すると、「Extension」ボックスに入力された文字を DNS 登録名の最後に付加します。
DNS Name	DNS への登録名が表示されます。

POINT

- 設定された「DNS Name」は Web ブラウザの最上位部（タイトルバー）に表示されます。

4.8.4 DNS Configuration

DNS に関する設定を行います。



表：DNS Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
DNS enabled	有効に設定すると、名前の解決に DNS を使用します。
Obtain DNS configuration from DHCP	有効に設定すると、DHCP から DNS の設定を取得します。
DNS Domain	DNS ドメインを設定します。
DNS Server 1 ～ 5	DNS サーバ 1 ～ 5 の IP を設定します。

4.9 Alerting

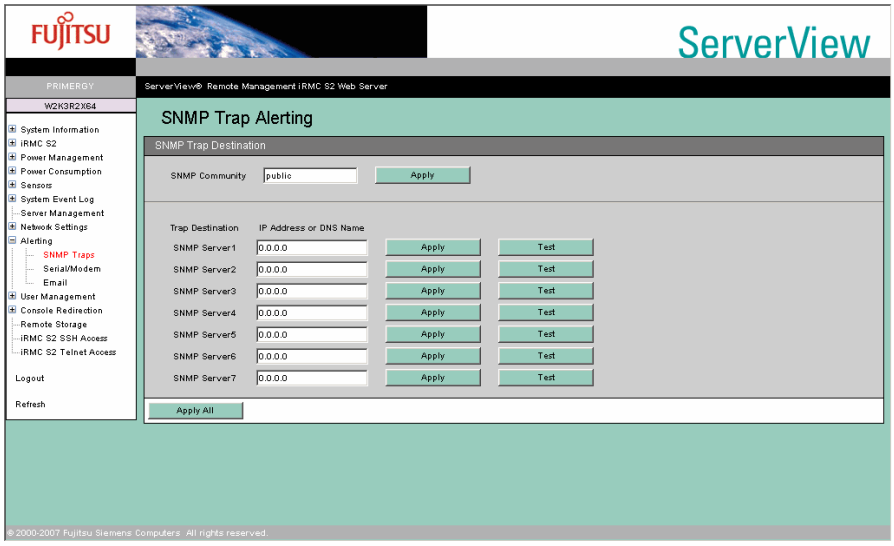
SNMP トラップおよび E-mail の送信設定を行います。また、SNMP トラップのテスト送信が行えます。

POINT

- Serial/Modem Alerting は未サポートです。

4.9.1 SNMP Trap Alerting

SNMP トラップの送信設定を行います。

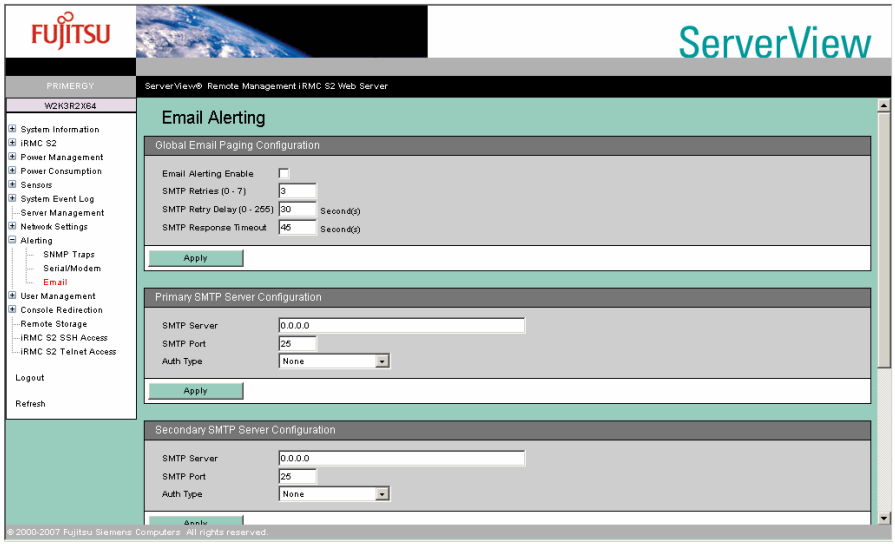


表：SNMP Trap Alerting に表示される項目の説明

項目	説明
SNMP Trap Destination	各設定値を入力後、［Apply All］をクリックすることで、すべての設定値が反映されます。
SNMP Community	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名を設定します。デフォルトは「public」に設定されています。コミュニティ名を入力後、［Apply］をクリックして決定します。受信サーバでトラップを受信するには、SNMP 受信のコミュニティ名が同じ名前になっている必要があります。
Trap Destination SNMP Server 1 ～ 7	SNMP トラップの送信先サーバ（Trap 受信サーバ）の IP アドレスを指定します。送信先サーバは 7 カ所まで指定可能です。送信先サーバの IP アドレスを入力後、［Apply］をクリックし、設定を反映します。DNS を有効に設定してある場合は、IP の代わりにサーバ名を設定することもできます。［Test］をクリックすると、設定したサーバに対し Test トラップを送信します。

4.9.2 Email Alerting

E-mail の設定を行います。



表：Email Alerting に表示される項目の説明

項目	説明
Global Email Paging Configuration	SMTP サーバに対する設定を行います。
Email Alerting Enable	SMTP サーバに対する設定の有効／無効を設定します。
SMTP Retries	E-mail 送信エラーとなった場合の、リトライ回数を設定します。
SMTP Retry Delay	リトライを行う間隔（秒）を設定します。
SMTP Response Timeout	SMTP サーバからのレスポンス待ち時間（秒）を設定します。
Primary SMTP Server Configuration	プライマリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP Server	プライマリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP Port	プライマリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
Auth Type	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 ・NONE SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・SMTP AUTH(RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。
Secondary SMTP Server Configuration	セカンダリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP Server	セカンダリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP Port	セカンダリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
Auth Type	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 ・NONE SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・SMTP AUTH(RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。

表：Email Alerting に表示される項目の説明

項目	説明
Mail Format dependend Configuration	E-mail の送信フォーマットを設定します。
From	送信元の名前を設定します。
Subject	E-mail の題名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
Message	E-mail 本文に付加するメッセージを設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
Admin.Name	送信元の管理者名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
Admin.Phone	送信元の管理者電話番号を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
REMCS Id	REMCS ID を設定します。ただし、設定が有効になるのは REMCS フォーマット時のみです。
Server URL	送信元の URL を設定します。

POINT

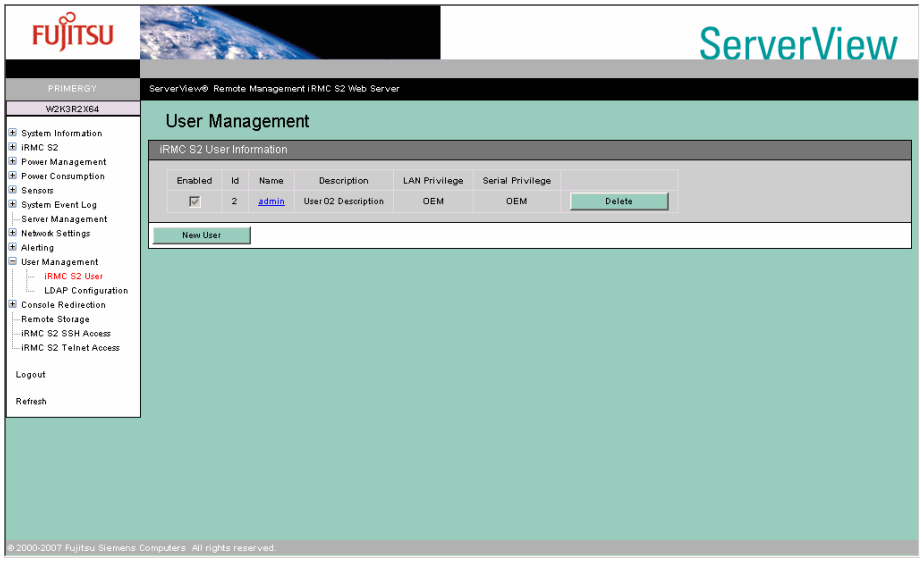
- 「Mail Format dependend Configuration」で設定できるのは、送信フォーマットのみです。送信先の指定や送信レベルの設定は、「4.10 User Management」（→ P.67）で行います。
- Email 送信で指定するメールサーバのメールソフトの種類、または LAN 回線の速度などによりメールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「Global Email Paging Configuration」の「SMTP Response Timeout」の値を 50 秒程度に変更してください。

4.10 User Management

リモートマネジメントコントローラやディレクトリサービスにログインする設定を行います。

4.10.1 User Management

リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ名／パスワードの設定や、ユーザ名に対する動作レベル、E-mail 送信に関する詳細設定を行います。



表：User Management に表示される項目の説明

項目	説明
Enabled	ユーザの有効／無効が表示されます。
Id	ユーザの通し番号が表示されます。
Name	ユーザ名が表示されます。
Description	ユーザの説明が表示されます。
LAN Privilege	LAN ポート経由のアクセス権限が表示されます。
Serial Privilege	シリアルポート経由のアクセス権限が表示されます。未サポートです。

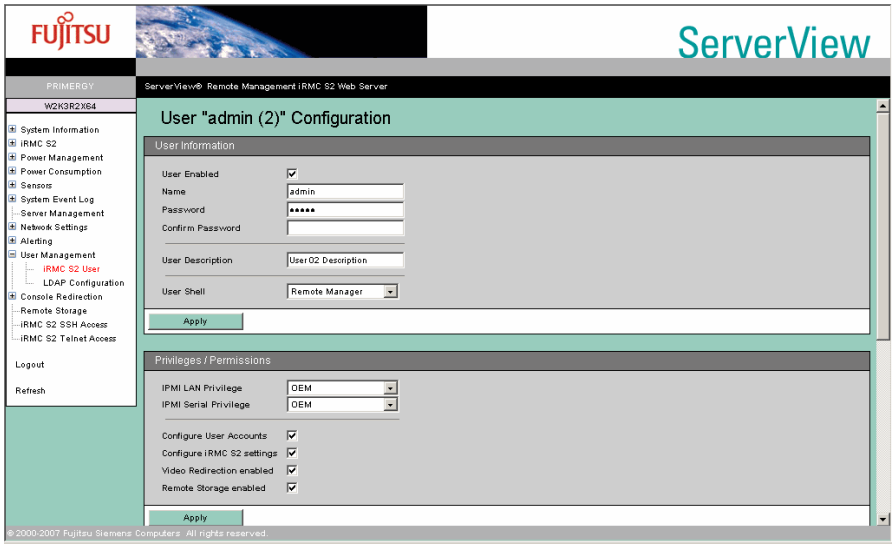
［Delete］をクリックすると、登録されているユーザが削除されます。デフォルトで作成されるユーザ名／パスワード、および権限については、「2.1 準備」（→ P.14）を参照してください。

重要

- 以下の場合、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースへのアクセスができなくなるか、使用できる機能が限定され、「User」の作成および変更ができなくなります。
  ・すべてのユーザを削除した場合
  ・Administrator/OEM のアクセス権限を持つユーザをすべて削除、または権限変更した場合
  この場合、以下の手順で、サーバ本体に添付されている「Server Management Tools」を使用して復元してください。
  1. 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットしてサーバの電源を入れます。
  2. Server Management Tools（IPMI-Tool）を起動します。
     Server Management Tools の起動方法については、サーバに添付の PRIMERGY スタートアップディスク内に格納の『ユーザーズガイド』を参照してください。
  3. IPMI-Tool 画面が表示されたら、「User Management」を選択します。
  4. 1 ～ 16 のいずれかを選択します。
     既存の User ID の権限を変更する場合は、手順 7 へ進んでください。
  5. 「User Name」、「Password」および「Confirm Password」を入力します。
  6. 【F1】キー（Set Value）を押して設定を保存し、【Esc】キーを押して User 設定画面に戻ります。
  7. 【F2】キー（Configure Access）を押して「2 802.3_LAN」を選択し、［Privilege Limit］で「5」（OEM）を選択します。
  8. 【F1】キー（Set Value）を押して設定を保存します。
     【Esc】キーを数回押して、IPMIview を終了します。

■ ユーザ情報の変更

登録されているユーザ名をクリックすると、登録されている設定を変更できます。



表：User Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
User Information	ユーザ情報を設定します。
User Enabled	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
Name	ユーザ ID を設定します。
Password	パスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードを再入力します。
User Description	ユーザの説明を設定します。
User Shell	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。Remote Manager 以外は未サポートです。
Privileges / Permissions	動作レベルを設定します。
IPMI LAN Privilege	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 ・USER ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 ・Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 ・Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 ・OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
IPMI Serial Privilege	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
Configure User Accounts	ユーザアカウントの変更権限を与えます（V1.66A 以降）。
Configure iRMC S2 settings	iRMC の設定変更権限を与えます（V1.66A 以降）。
Video Redirection enabled	Video Redirection の使用権限を与えます（V1.66A 以降）。
Remote Storage enabled	Remote Storage の使用権限を与えます（V1.66A 以降）。

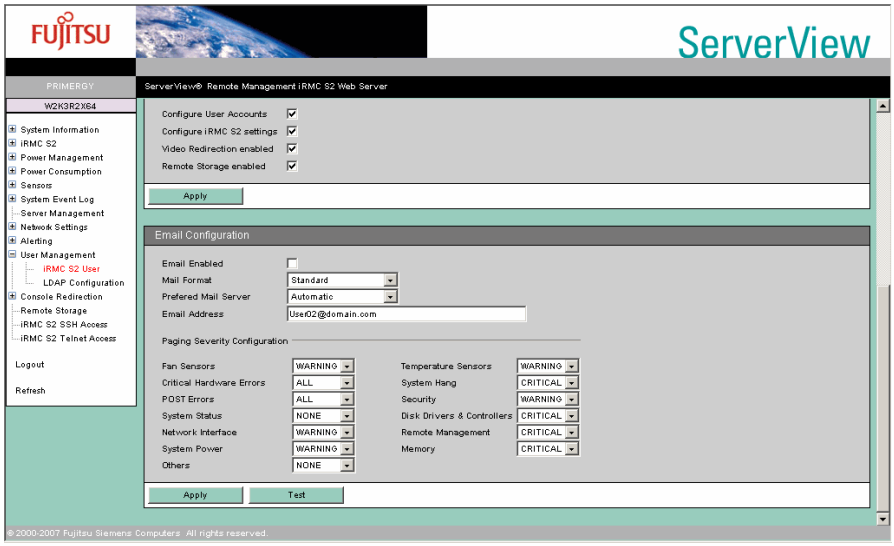
重要

- ユーザアカウントの制限は以下のとおりです。
  - ・ユーザ ID 文字数
    16Byte
  - ・パスワード 文字数
    15Byte

  なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で以下の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。
  ＞　＜　"　/　¥　=　!　?　;　,　&

■ E-Mail 送信設定

ユーザごとの E-Mail 送信設定を行います。

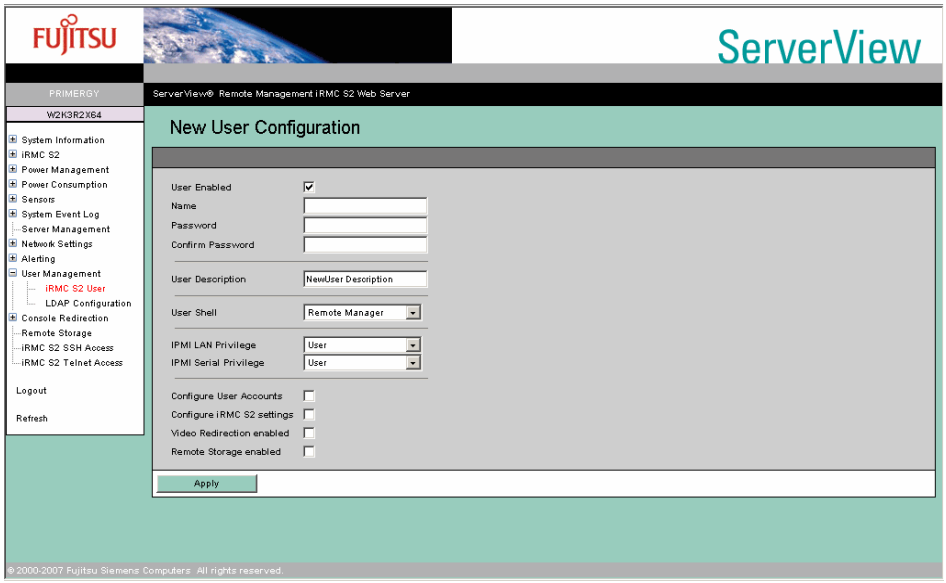


表：Email Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
Email Enabled	設定の有効／無効を設定します。
Mail Format	送信する E-mail のフォーマットを選択します。 ・Standard 通常の E-mail フォーマットです。 ・ITS-Format ITS 形式の E-mail フォーマットです。未サポートです。 ・Fujitsu REMCS-Format REMCS 形式の E-mail フォーマットです。
Prefered Mail Server	「4.9.2 Email Alerting」（→ P.65）で設定した SMTP サーバから使用する SMTP サーバを選択します。 ・Automatic Primary、Secondary の順で使用可能な SMTP サーバが選択されます。 ・Primary Primary SMTP Server Configuration で設定した SMTP サーバを使用します。 ・Secondary Secondary SMTP Server Configuration で設定した SMTP サーバを使用します。
Email Address	送信先 E-mail アドレスを設定します。
Paging Severity Configuration	E-mail を送信する事象を選択します。事象ごとに設定します。 各事象での選択肢は次のとおりです。 ・NONE E-mail を送信しません。 ・CRITICAL 異常レベルの事象発生時に、E-mail を送信します。 ・WARNING 警告レベル以上の事象発生時に、E-mail を送信します。 ・ALL 事象が発生したすべてのレベルに対して、E-mail を送信します。
［Test］	E-mail のテスト送信を行います。

■ ユーザ情報の新規作成

［New User］をクリックすると、ユーザを新規に作成できます。



表：New User Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
User Enabled	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
Name	ユーザ ID を設定します。
Password	パスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードを再入力します。
User Description	ユーザの説明を設定します。
User Shell	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。Remote Manager 以外は未サポートです。
IPMI LAN Privilege	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 ・USER ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 ・Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 ・Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 ・OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
IPMI Serial Privilege	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
Configure User Accounts	ユーザアカウントの変更権限を与えます（V1.66A 以降）。
Configure iRMC S2 settings	iRMC の設定変更権限を与えます（V1.66A 以降）。
Video Redirection enabled	Video Redirection の使用権限を与えます（V1.66A 以降）。
Remote Storage enabled	Remote Storage の使用権限を与えます（V1.66A 以降）。

重要

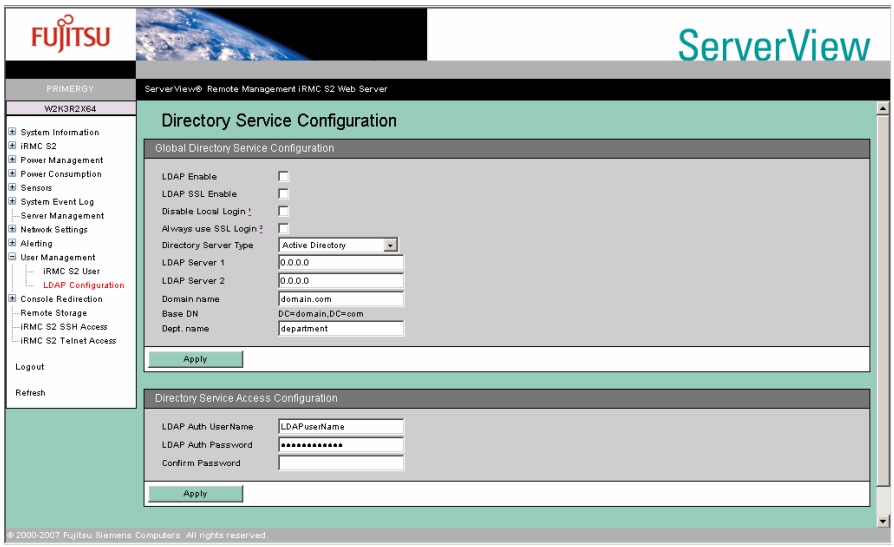
- ユーザアカウントの制限は以下のとおりです。
  - ・ユーザ ID 文字数：16Byte
  - ・パスワード 文字数：15Byte

  なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で以下の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。

  ＞　＜　"　/　¥　＝　！　？　；　，　＆
- RemoteControlService から iRMC Telnet 機能を使用する場合は、ログインユーザが以下の権限である必要があります。
  - ・IPMI LAN Privilege：Administrator
  - ・User Shell：Remote Manager

4.10.2 Directory Service Configuration

リモートマネジメントコントローラで Directory Service を使用する設定を行います（V1.66A 以降）。



表：Directory Service Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
Global Directory Service Configuration	
LDAP Enable	Directory Service アクセスを有効にします。
LDAP SSL Enable	Directory Service へ SSL でのアクセスを有効にします。
Disable Local Login	Directory Service 有効時、ローカル ID でのログインを無効にします。
Always use SSL Login	Directory Service 有効時、iRMC へのアクセスを SSL 接続に制限します。
Directory Server Type	Directory Service のタイプを設定します。 ・Active Directory Directory Service のタイプを「Active Directory」とします。 ・Novell Directory Service のタイプを「Novell」とします。未サポートです。 ・OpenLDAP Directory Service のタイプを「OpenLDAP」とします。未サポートです。
LDAP Server 1	Directory Service のサーバ IP を設定します。
LDAP Server 2	Directory Service のサーバ IP を設定します。
Domain name	Directory Service アクセスのドメイン名を指定します。
Base DN	設定されているドメインが表示されます。
Dept. name	Directory Service の部署名を設定します。
Directory Service Access Configuration	
LDAP Auth UserName	Directory Service へアクセスするユーザ ID を設定します。
LDAP Auth Password	Directory Service へアクセスするパスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードの再入力です。

POINT

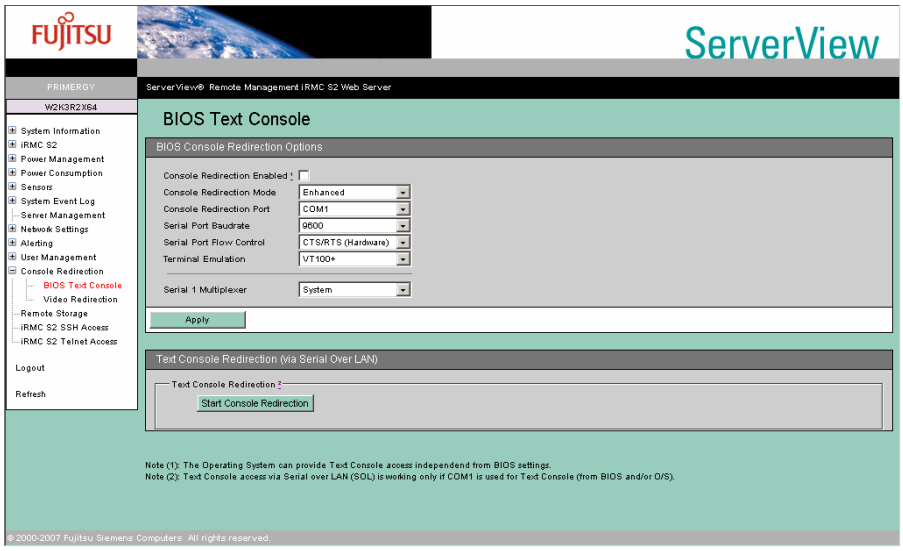
- リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用するには、Directory Service にリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要です。設定方法は「付録 A LDAP を使用する場合の設定」（→ P.94）を参照してください。
- LDAP を有効（Enable）に設定すると、ログイン画面は SSL アクセスとなります。

4.11 Console Redirection

コンソール（出力画面）のリダイレクションに関する設定、表示（動作）を行います。

4.11.1 BIOS Text Console

RemoteControlService の Text 画面リダイレクション設定を行います。



重要

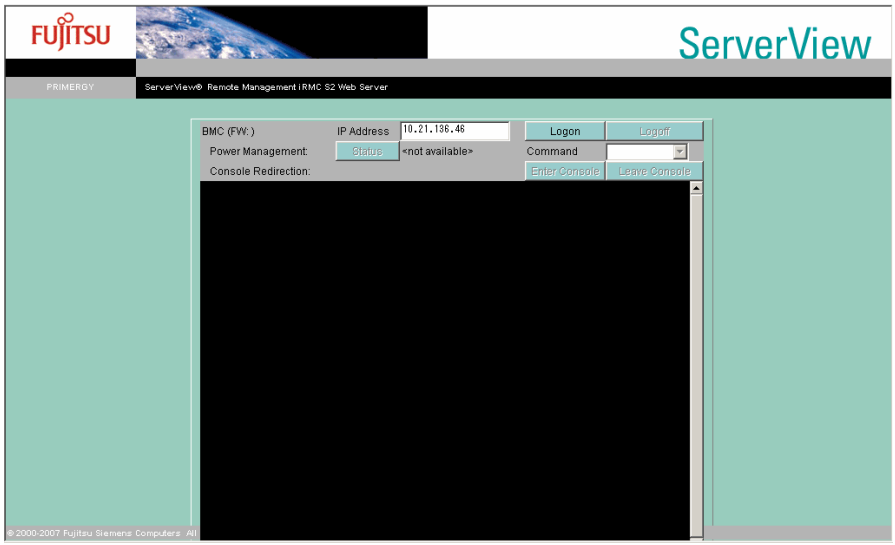
- BIOS Text Console を使用する際の各設定値は、以下のとおりに設定してください。

表：BIOS Text Console の設定値

項目	設定値
Console Redirection Enabled	チェックする
Console Redirection Mode	Enhanced
Console Redirection Port	Serial 1
Serial Port Baudrate	9600
Serial Port Flow Control	CTS/RTS（Hardware）
Terminal Emulation	VT100+
Serial 1 Multiplexer	System

■ Text Console Redirection

リモートでテキストコンソールのリダイレクションを行う場合は、BIOS Text Console 画面で［Start Console Redirection］をクリックします。



起動される画面、および操作方法については、『ServerView ユーザーズガイド（RCS 編）』を参照してください。

POINT

- Text Console Redirection は TEXT ベースの Console Redirection です。POST から OS（Windows/Linux）のブート開始まで（BIOS 設定含む）のリダイレクションが行えます。

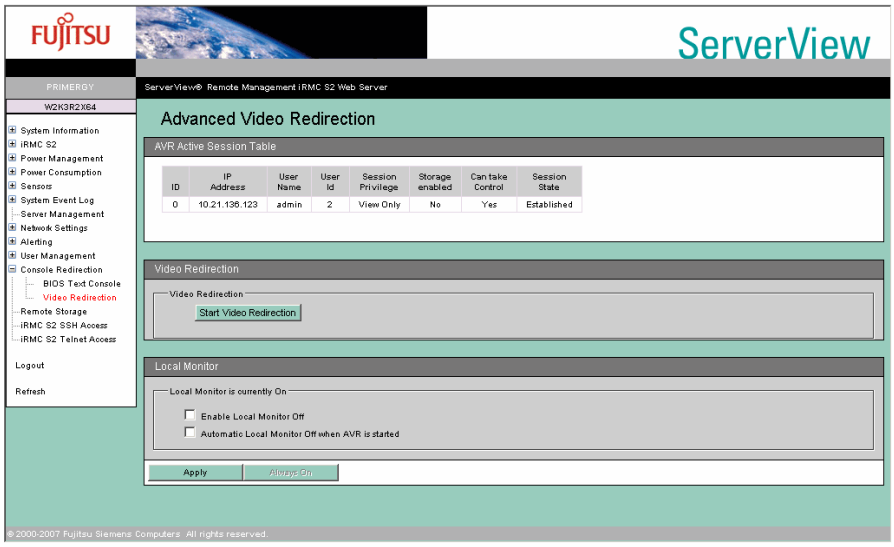
4.11.2 Advanced Video Redirection

リモートでコンソールのリダイレクションを行います。

重要

- Video Redirection の機能を使用するには、別途、ライセンスキーが必要になります。
  ライセンスキーおよびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。
  ライセンスキーの設定については、「4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定」（→ P.30）を参照してください。
- ユーザの権限に「Video Redirection enabled」が設定されていない場合、Video Redirection は行えません。「4.10.1 User Management」（→ P.67）の「■ ユーザ情報の変更」（→ P.68）を確認してください（V1.66A 以降）。

ライセンスが承認されていると、以下の画面が表示されます。



表：Advanced Video Redirection に表示される項目の説明

項目	説明
AVR Active Session Table	Advanced Video Redirection に接続しているマシンの情報が表示されます。接続していない場合は表示されません。
ID	接続マシンの通し番号です。
IP Address	接続マシンの IP アドレスです。
User Name	リモートサービスコントローラへのログインユーザ名です。
User Id	ログインユーザ名の ID 番号です。 詳しくは、「4.10.1 User Management」（→ P.67）をご覧ください。
Session Privilege	Advanced Video Redirection の操作モードです。 ・View Only：参照モード ・Full Control：操作可能モード
Storage enabled	Remote Storage 接続の状態です。
Can take Control	Advanced Video Redirection のコントロール可否です。 ・YES：コントロール権があります。 ・NO：コントロール権がありません。
Session State	Advanced Video Redirection の接続状態です。
VideoRedirection	
［Start Video Redirection］	Advanced Video Redirection を開始します。
Local Monitor	サーバのモニタ出力を制御します。モニタ出力制御不可の場合、この項目は表示されません。
Enable Local Monitor Off	サーバのモニタ出力を OFF にする場合、チェックします。この項目を有効にすると［Always On］が［Turn Off］／［Turn On］に変わります。 ［Turn Off］：サーバのモニタ出力を OFF にします。 ［Turn On］：サーバのモニタ出力を ON にします。
Automatic Local Monitor Off when AVR is active	Advanced Video Redirection 接続時に自動的にサーバのモニタ出力を OFF にします（「iRMC S2」のみ）。

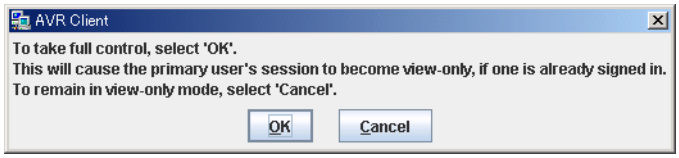
POINT

- 「Enable Local Monitor Off」を有効にした場合、VideoRedirection 画面の「Extras」メニューからもサーバのモニタ出力を ON/OFF することができます。

重要

- Local Monitor が OFF の状態（「Enable Local Monitor Off」が有効）の場合、サーバ前面のシステム識別灯は点滅状態となります。この状態では、「システム識別灯」ボタンを操作しても点滅状態は変わりません。

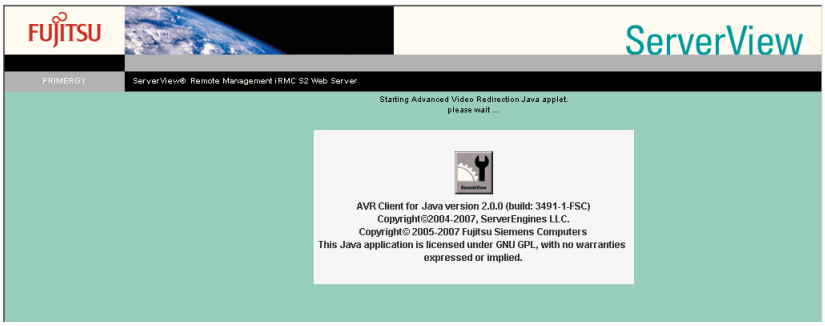
［Start Video Redirection］をクリックすると Video Redirection 画面が起動されます。
また、起動時には以下の画面が表示されます。



マウス、キーボードなどを使用する場合は、［OK］をクリックしてください。Full Control モードになります。［Cancel］をクリックすると View モードとなり、マウス、キーボードなどは使用できません。表示のみとなります。

POINT

- Video Redirection では Java を使用しているため、以下の画面が起動されますが、Video Redirection を終了しても自動で同時終了されません。手動で終了してください。



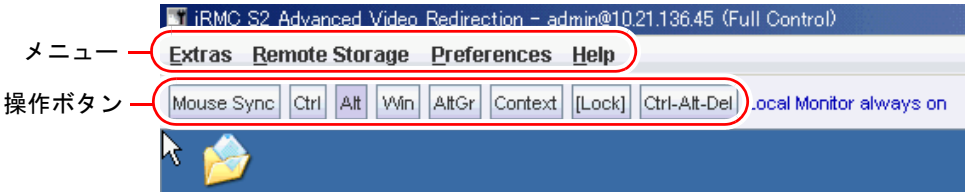
重要

- Video Redirection では以下の表示をサポートしていません。
  - ・iRMC S2 より前のバージョン
    1024 × 768 を超えた解像度、および 24Bit/32Bit Color モード
  - ・iRMC S2 以降のバージョン
    1280 × 1024 以上の解像度での 24Bit/32Bit Color モード
    1600 × 1200 を超えた解像度
  - ・標準以外の VGA ドライバの使用
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに繰り返し Video Redirection を起動した場合、Java エラーとなったり、Video Redirection が無応答となる場合があります。その場合には、ブラウザをすべて終了させ、再度リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを起動してください。

- Video Redirection でマウス、キーボード操作を有効にした場合、サーバ側では USB 接続のマウス、キーボードとして認識されます。サーバの設定で USB 接続が無効（USB ドライバがないなど）の場合は、マウス、キーボードの Video Redirection での操作はできません。

4.11.3 Video Redirection の画面構成

Video Redirection が起動すると、以下の画面が表示されます。
画面上部にメニューがあり、その下に操作ボタンが配置されています。



■ Video Redirection メニュー

表：Video Redirection のメニュー

項目	説明
Extras	
Virtual Keyboard...	グラフィカルキーボードを表示します。 →「4.11.6 グラフィカルキーボード」（P.85）
Update Local Monitor State	サーバのモニタ出力状態を再取得します。現在のモニタ出力状態は、VideoRedirection 画面の［Lock］ボタンの右側に青字で表示されます。
Turn Local Monitor on	サーバのモニタ出力を ON にします。
Turn Local Monitor off	サーバのモニタ出力を OFF にします。
Refresh Screen	リダイレクション画面の再読み込みを行います。
Take Full Control...	Full Control へ変更します。View モード時のみ有効です。
Disconnect Session...	Video Redirection での接続を切断します。未サポートです。
Relinquish Full Control...	View モードへ変更します。Full Control モード時のみ有効です。
Exit	Video Redirection を終了します。
Remote Storage	リモートストレージの接続設定を行います。 →「4.11.5 リモートストレージ接続」（P.81）
Preferences	マウス、キーボード、ログに関する設定を行います。 →「4.11.7 マウス、キーボードの設定」（P.85）
Help	セッション状態、および Video Redirection のバージョンを表示します。

重要

- 「Extras」メニューの「Update Local Monitor State」、「Turn Local Monitor on」、「Turn Local Monitor off」の 3 項目はモニタ出力制御ができない機種では表示されません。

■ Video Redirection 操作ボタン

表：Video Redirection の操作ボタン

ボタン	説明
［Mouse Sync］	サーバ側のマウスカーソル位置をシンクロ動作させます。
［Ctrl］	【Ctrl】キーに相当します。
［Alt］	【Alt】キーに相当します。
［Win］	【Windows】キーに相当します。
［AltGr］	ヨーロッパ仕様キー配列の【AltGr】キーに相当します。未サポートです。
［Context］	マウスの右クリックメニューを表示します。
［Lock］	【Ctrl】／【Alt】／【Windows】キーを押したままの状態になります。 自動解除されませんので、解除するには再度［Lock］をクリックしてください。
［Ctrl-Alt-Del］	【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーの同時押しに相当します。

POINT

- Windows にログオンする場合は、［Ctrl-Alt-Del］をクリックしてください。

重要

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに、URL を変更して別のリモートマネジメントコントローラに接続した場合、Video Redirection の「Remote Storage」メニューは表示されません。別のリモートマネジメントコントローラに接続する際は、いったん、ブラウザを終了させてください。Remote Storage が使用できない場合、その旨のメッセージが表示されます。

4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定

［Mouse Sync］をクリックすると、マウスカーソルをシンクロさせることができます。
［Mouse Sync］をクリックしてもシンクロしない場合、Video Redirection 対象のサーバで以下の設定を行ってください。
以下の設定を行った後は、［Mouse Sync］をクリックしてマウスのシンクロ操作を行ってください。

■ Windows の場合

● 画面の設定

1 コントロールパネルを起動し、「画面」を選択します。

2 ［設定］タブの［詳細］をクリックします。

3 ［トラブルシューティング］タブの「ハードウェア アクセラレータ」を「最大」から左に 1 メモリ移動し、［OK］をクリックします。

● マウスの設定

1 コントロールパネルを起動し、「マウス」を選択します。

2 マウスの動作設定を行います。

Windows 2000 Server の場合

［動作］タブの「加速」項目を「なし」に設定します。

Windows Server 2003 の場合

［ポインタオプション］タブの「精度を高める」にチェックが入っている場合はチェックを外します。

3 Video Redirection の［Mouse Sync］をクリックし、マウスカーソルを同期させます。

マウスカーソルがずれる場合、「速度」項目のスライダーを調整してください。

■ Linux の場合

● RHEL-AS3(x86) ／ RHEL-AS3(IPF) ／ RHEL-ES3(x86) の場合

1 X Window の設定ファイルを vi エディタなどで開きます。

```
>vi /etc/X11/XF86Config
```

2 以下の 2 行を変更します。

```
Identifier  "Mouse0"              →  Identifier  "DevInputMice"に変更
Driver      "mouse"
Option      "Protocol" "PS/2"

Identifier  "DevInputMice"        →  Identifier  "Mouse0"に変更
Driver      "mouse"
Option       "Protocol" "IMPS/2"
```

3 ファイルを閉じ、X Window を再起動します。

4 ［メイン・メニュー］－［個人設定］－［マウス］を起動し、［動き］タブをクリックし、「加速」を調整します。

スライドを動かす量については Web インターフェースを起動しているマシン、対象サーバによって異なります。

・Video Redirection のカーソルに対しサーバ側カーソルが追いついてこない場合
　［速い］の方向へスライドを動かしてください。

・Video Redirection のカーソルに対しサーバ側カーソルが先に進んでしまう場合
　［遅い］の方向へスライドを動かしてください。

● RHEL-AS3(x86) ／ RHEL-AS3(IPF) ／ RHEL-ES3(x86) 以外の場合

1 次のコマンドを実行します。

```
>xset m 0 0
```

● **SUSE Linux の場合**

1 マウスが複数インストールされている場合、2 つ目以降のマウスを削除します。

1. メニューから「sax32」を起動します。
2. 「Input device」→「mouse」の 2 つ目以降のマウスを Remove します。

2 メインメニューから「コントロールセンター」→「Input Device」→「Mouse」を選択します。

3 「Advance Pointer Accelerator」の値を「1x」に設定します。

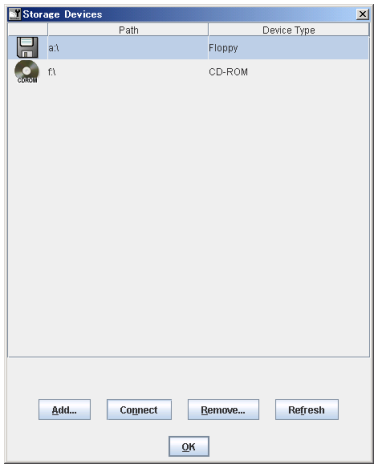
重要

- RHEL-AS3(x86)／RHEL-AS3(IPF)／RHEL-ES3(x86)のマウスカーソルのシンクロ動作設定を行った場合、以下の制約があります。
  - ・gpm サービスを使用する際、異常が発生することがある
  - ・X-Window のマウス設定（redhat-config-mouse コマンド含む）を行うと、サーバのマウスが動作不能になる

  Video Redirection を終了させても設定は継続されるため、Video Redirection 終了時には設定を元に戻し、X-Window を再起動してください。
- マウスのシンクロ動作設定は上記 OS 以外はサポートしていません。
  また、マウスの動作を制御するソフトウェアが起動している場合、マウスカーソルのシンクロ動作が行えない場合があります。

4.11.5 リモートストレージ接続

「■ Video Redirection メニュー」（→ P.78）から「RemoteStorage」を選択すると、リモートストレージ接続を実行することができます。リモートストレージ接続とは、Web インターフェースを起動しているマシンの外部記憶装置を、Video Redirection の対象サーバのリモート接続装置として接続させる機能です。接続したい装置を選択し［Connect］をクリックすると、Video Redirection の対象サーバに接続されます。



重要

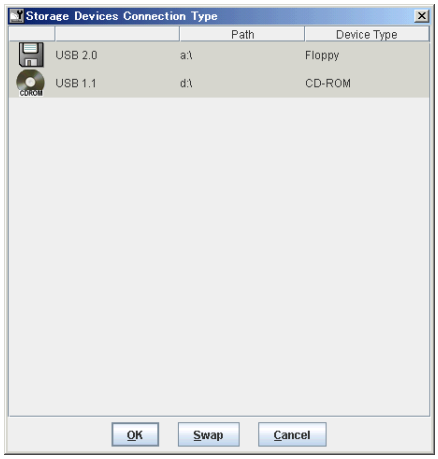
- リモートストレージ接続の機能を使用するには、別途ライセンスキーが必要になります。
  ライセンスキー、およびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。
- リモートストレージ接続の機能で利用できる機器は、以下のとおりです。ただし、DVD ドライブにおける書き込み機能は未サポートです。
  ・内蔵フロッピーディスクドライブ
  ・ATAPI CD-ROM ドライブ
  ・ATAPI DVD ドライブ
  ・USB フロッピーディスクドライブ
  ・USB CD-ROM ドライブ
- リモートストレージ接続は、Video Redirection 終了時に自動的に解除されます。
- リモートストレージで接続された機器は、サーバ側では USB 接続機器として認識されますので、USB が使用できない環境（USB ドライバがないなど）では使用できません。
- リモートストレージ接続で、一度に接続できる機器は 2 台までです。

POINT

- 装置の接続を解除したい場合は、［Disconnect］をクリックします。
- リモートストレージの一覧に表示されていない装置がある場合は、［Refresh］をクリックしてください。装置の再検索 を行います。
- 画面に表示されない装置（ImageFile など）を追加する場合は、［Browse］をクリックして、指定してください。
- フロッピーディスクや CD-ROM などは、媒体がセットされていないと一覧には表示されません。
- Remote Device の追加接続や個別解除はできません。
- BIOS が USB Legacy をサポートしている場合には､Remote Storage で接続した媒体から Boot が行えます。BIOS セットアップユーティリティで「Multiboot」および「USB Legacy Support」を［Enabled］に設定し、Remote Storage 接続した媒体を BOOT 順番の一番上に設定してください。

● リモートストレージ接続で 2 台同時接続している際の USB 速度の切り替え方法（「iRMC S2」のみ）

Remote Storage で 2 台同時に接続（Connect）した場合、サーバ側では USB1.1 と USB2.0 で接続されます。
どちらの接続にどの USB を接続するか選択する画面が表示されます。



1 ［Swap］をクリックします。

2 台の装置の接続（「USB 1.1」と「USB 2.0」）が切り替わります。

2 ［OK］をクリックします。

■ Red Hat Linux でのリモートストレージ接続で一度に 2 台接続する方法

POINT

- 各コマンドの詳細は Linux コマンドのマニュアルを参照してください。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の機器に対してのリモートストレージ接続は、デフォルト設定では 1 台のみ有効ですが、以下の方法を行うことで一度に 2 台の機器への接続が可能です。

例）フロッピーディスクドライブ／ CD-ROM ドライブの 2 台を同時接続する場合（FPD:No0,CD-ROM:No.1）

1 クライアント側でリモート接続します。

1. 「■ Video Redirection メニュー」（→ P.78）から「Remote Storage」をクリックします。
2. 表示された画面で、フロッピーディスクドライブ／ CD-ROM ドライブを選択して［Connect］をクリックします。

2 サーバの RedHat 画面（Video Redirection）で以下のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

接続デバイス情報が表示されます。

3 Remote Storage で接続された 1 台目（FPD）の設定のうち、Host 名、Channel、id、Lun の情報を控えておきます。

（例：Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0）

4 以下のコマンドを実行します。

```
echo "scsi add-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D にはそれぞれ以下の内容を設定してください。

表：英字に設定する内容

記号	意味	説明
A	Host 名の scsi 番号	例えば Host 名が scsi3 なら A は 3 となります。接続するたびに変わります。
B	Channel 番号	Remote Storage 接続 1 台目と同じ Channel 番号を設定します。
C	id 番号	Remote Storage 接続 1 台目と同じ id 番号を設定します。
D	Lun 番号	「Remote Storage 接続 1 台目の Lun 番号」＋ 1 の数字を設定します。

例：Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0 の場合

```
echo "scsi add-single-device 3 0 0 1" >/proc/scsi/scsi
```

5 以下のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

追加設定で CDROM が設定されたことを確認します。

6 以下のコマンドを実行し、media フォルダに cdrom が追加されることを確認します。

```
ls /media
```

cdrom1 があれば問題ありません。

7 以下のコマンドを実行し、RemoteCDROM に入れることを確認します。

```
cd /media/cdrom1
```

8 以下のコマンドを実行し、設定を削除します。

設定を削除せずに Remote Storage 接続を終了すると、cdrom1 の設定が残ったままとなるため、次回の接続では cdrom2 となります。

```
echo "scsi remove-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D には、「表：英字に設定する内容」（→ P.83）の内容を設定してください。

9 以下のコマンドを実行し、設定が削除されたか確認します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

10 クライアントで Remote Storage の接続を解除します。

Web コンソールの画面で［Disconnect］をクリックします。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) ではそのままで接続は可能ですが、自動で OS にマウントされません。
リモートストレージを使用する場合はマウントコマンドを使用してマウントしてください。

- フロッピーディスクの場合

```
mount /dev/hdb  /media/floppy
```

- CD-ROM の場合

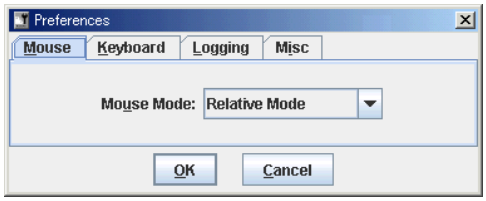
```
mount /dev/scd0  /media/cdrom
```

4.11.6 グラフィカルキーボード

「■ Video Redirection メニュー」（→ P.78）から「Extras」→「Virtual Keyboard...」の順に選択すると、Video Redirection の画面上にグラフィカルキーボードを表示することができます。画面上のキーボードをマウスでクリックすることで、対応するキーが対象のサーバに送信されます。

4.11.7 マウス、キーボードの設定

「■ Video Redirection メニュー」（→ P.78）から「Preferences」→「Preferences...」の順に選択すると、マウスの動作モード、キーボードのキー配列、ログの採取、画面の設定が行えます。設定を選択後、［OK］をクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。ユーザ名とパスワードを入力し、［はい］をクリックすると設定が反映されます。



重要

- サーバ側で Num Lock On の状態で Video Redirection を行うと、クライアント側も Num Lock On となります。

■ Mouse タブ

マウスの動作モードを設定します。

表：マウスの設定

項目	説明
Mouse Mode:	
Hide Mode (Relative)	操作側のマウスカーソルを表示しません（モードは Relative Mode）。
Absolute Mode	X 軸、Y 軸アドレス移動モードです。
Relative Mode	相対アドレス移動モードです。

POINT

- 「Hide Mode（Relative）」を選択後、再びクライアント側のマウスカーソルを表示する場合はクライアント側のキーボードで【Ctrl】＋【Alt】＋【0】を同時に押してください。
  【0】はテンキーではなく、ファンクションキーの下位置にある【0】キーを使用してください。

■ Keybord タブ

キーボードのキー配列、および接続タイプを設定します。

表：キーボードの設定

項目	説明
Language:	キーボードのキー配列を設定します。日本語キーボードが選択可能です。

■ Logging タブ

Video Redirection のログを作成します。

表：ログの作成方法

項目		説明
Global Logging		ログの出力先を指定します。
	None	ログファイルを出力しません。
	Console	Java Console にログを出力します。
	Log File	指定ファイルにログを出力します。
	Console and Log File	Java Console、および指定ファイルにログを出力します。
Console Log File		出力するログファイルを指定します。

■ Misc タブ

その他、Advanced Video Redirection デバッグ項目（V1.66A 以降）を設定します。

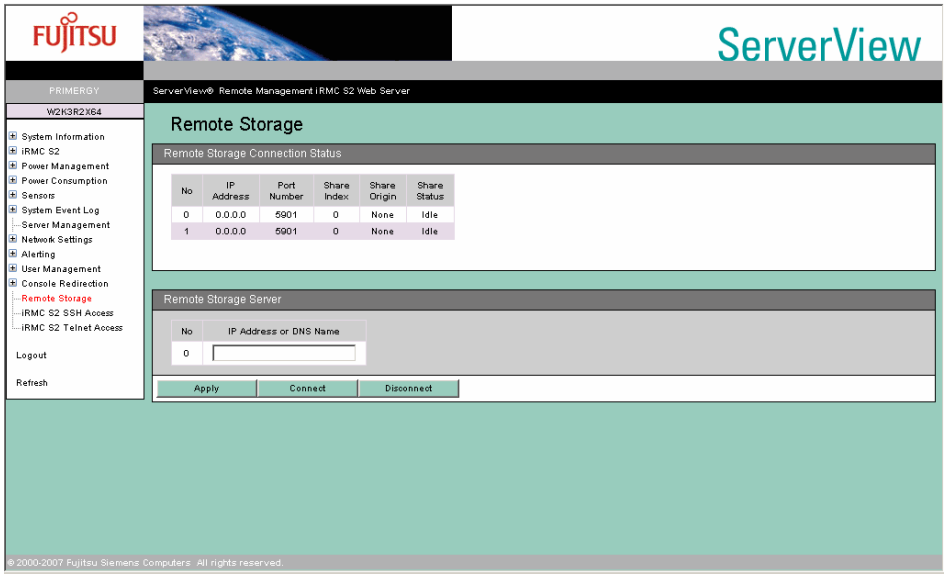
表：デバッグ項目の設定

項目	説明
Overwrite Native Library	DLL の上書きを許可します（未サポート）。
Hardware Compression	ハードウェアによる圧縮を許可します（未サポート）。

4.12 Remote Storage

リモートストレージの状態を参照します。

Video Redirection で設定した Remote Device の状態が表示されます。



表：Remote Storage に表示される項目の説明

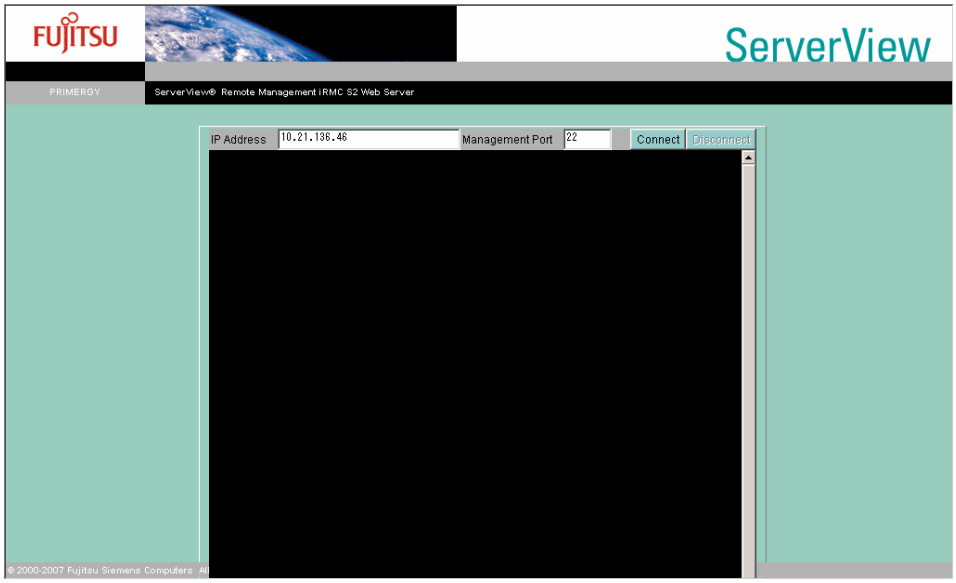
項目	説明
Remote Storage Connection Status	
No	Remote Device の通し番号です。
IP Address	Device が存在するサーバ／ PC の IP アドレスです。
Port Number	Remote Device が接続（通信）に使用するポート番号です。
Share Index	接続の際に割り当てられた番号です。
Share Origin	Device が存在するサーバ／ PC での状態です。 ・None：接続不可（未検索状態） ・Applet：接続可能（検索済み状態）
Share Status	現在の接続状態です。 ・Idle：未接続状態 ・Connected：接続状態
Remote Storage Server	未サポートです。
No	Remote Storage サーバの通し番号です。
IP Address or DNS Name	リモート接続するストレージサーバの IP アドレス、または DNS の登録名を指定します。
［Apply］	Remote Image Server の設定を保存します。
［Connect］	接続対象のイメージサーバを接続します。
［Disconnect］	接続されているイメージサーバを接続解除します。

POINT

- この画面でリモートストレージ接続は行えません。接続は Video Redirection から行ってください。
- ［Disconnect］をクリックするとリモートストレージ接続も解除されます。
- ユーザの権限に「Remote Storage enabled」が設定されていない場合、Video Redirection は行えません。「4.10.1 User Management」（→ P.67）の「■ ユーザ情報の変更」（→ P.68）を確認してください（V1.66A 以降）。
- Remote Storage Server を使用するには、Remote Storage Server プログラムが対象サーバにセットアップされている必要があります。
- リモートストレージ接続（CD-ROM やフロッピーディスク）と Remote Storage Server 接続を同時に行うことはできません。どちらか一方の接続のみを行ってください。

4.13 iRMC SSH Access

リモートマネジメントコントローラへ SSH 接続を行います。



4.13.1 接続方法と終了方法

● 接続方法

1 ［Connect］をクリックします。

リモートマネジメントコントローラへ接続されます。

2 リモートマネジメントコントローラの接続 ID とパスワードを入力します。

● 終了方法

1 ［Disconnect］をクリックします。

リモートマネジメントコントローラへの接続を終了します。
メインメニューから「quit」を選択せずに［Disconnect］をクリックした場合は、自動的に接続を終了します。
なお、接続を終了しても画面は閉じません。画面を閉じるには、「ファイル」メニューの「終了」を選択してください。

4.13.2 メインメニュー

リモートマネジメントコントローラのメインメニューです。
表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。
項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニューを表示しているときに【0】キーを押すと、接続が切断されます。

表：リモートマネジメントコントローラのメインメニュー

メニュー項目	説明
System Information	本機能は未サポートです。
Power Management	サーバの電源制御を行います。選択すると電源制御メニューが表示されます。
Enclosure Information	本機能は未サポートです。
Service Processor	本機能は未サポートです。
Change password	本機能は未サポートです。
Console Redirection (EMS/ASC)	コンソールをリダイレクトするときに使用します。
Start a Command Line shell..	本機能は未サポートです。

■ PowerManagement

表：Power Management メニュー

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、電源を再投入します。
Power On	サーバの電源を投入します。
Graceful Power Off (Shutdown)	サーバをシャットダウンします。 リモートマネジメントコントローラがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Graceful Reset (Reboot)	サーバを再起動します。 リモートマネジメントコントローラがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Raise NMI (via iRMC S2)	サーバに NMI 信号を送信します。NMI をサポートしていないサーバでは選択できません（V1.66A 以降）。

■ Console Redirection（EMS/ASC）

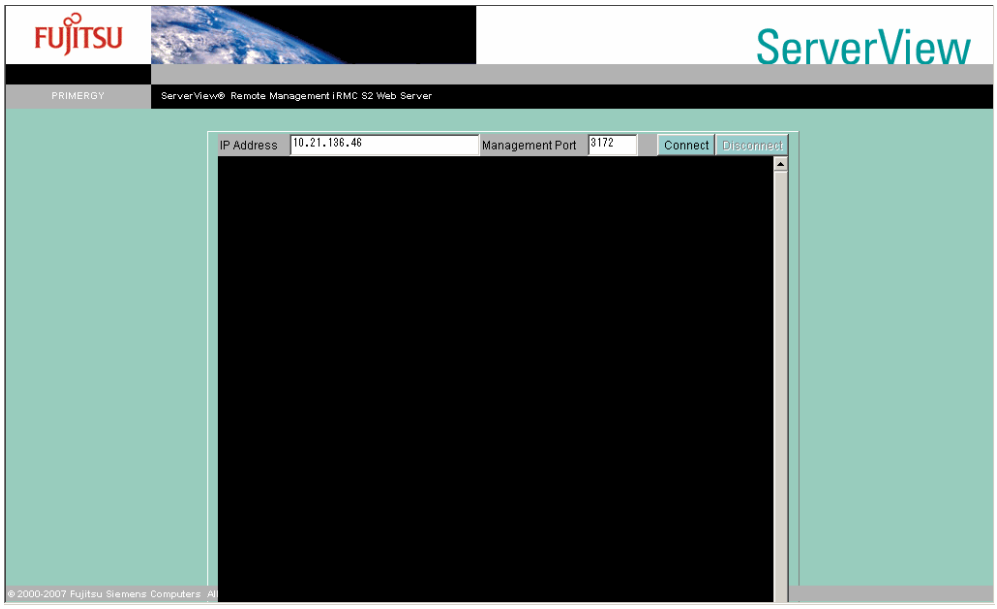
リモートマネジメントコントローラのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。
キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションによって以下の操作が行えます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ

コンソールリダイレクションは、チルダ（~）とピリオド（.）、または "Esc" と "(" を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

4.14 iRMC Telnet Access

リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行います。



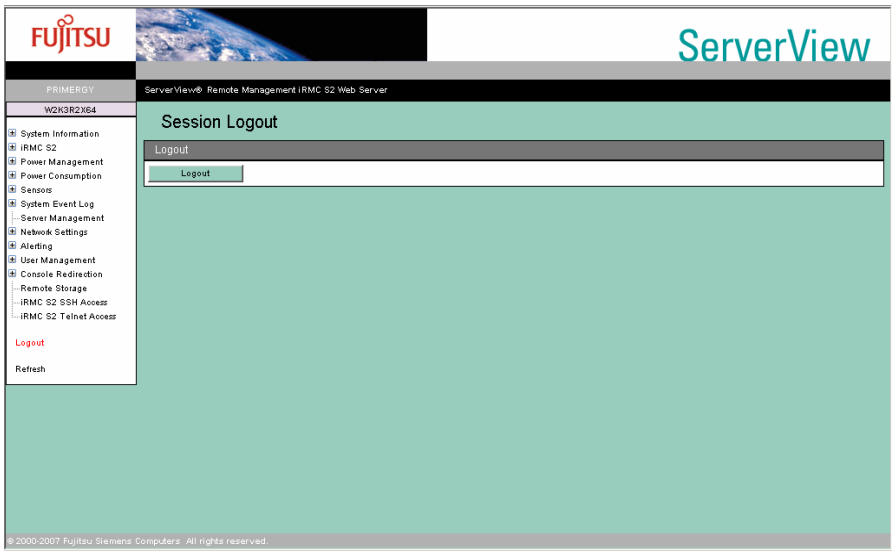
接続方法と終了方法、およびメインメニューは、「4.13 iRMC SSH Access」（→ P.89）と同様です。それぞれ「4.13.1 接続方法と終了方法」（→ P.89）および「4.13.2 メインメニュー」（→ P.90）を参照してください。

POINT

- リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行う場合は、あらかじめ Network Settings 画面の Ports で Telnet を有効にする必要があります。「4.8 Network Settings」（→ P.58）を参照してください。

4.15 Session Logout

リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースからログアウトします。



表：Session Logout に表示される項目の説明

ボタン	説明
［Logout］	［Logout］をクリックすると、一度ログアウトの確認が行われた後に、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースとのセッションを終了します。 ログアウト後、［Logout］は［Login］に変わります。再度ログインする場合は、［Login］をクリックしてください。

POINT

- ［Logout］によりログアウトしても、ブラウザは終了しません。

付録

この章では、リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用する際に必要な設定について説明しています。

A　LDAP を使用する場合の設定 94

A　LDAP を使用する場合の設定

リモートマネジメントコントローラでは LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）を利用したディレクトリ・サービスを利用できます。
その際、ディレクトリ・サービス（Directory Service）にリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要となります。

■ ディレクトリ・サービスを利用する際に必要な設定

ディレクトリ・サービスを利用するには以下の設定が必要です。

- ドメイン配下に Organizational Unit 「iRMCgroups」が必要です。
- 「iRMCgroups」配下に Organizational Unit「Departments」、「Shell」が必要です。
- 「Departments」配下に管理名（任意名）の Organizational Unit が必要です。
- 管理名の配下にリモートマネジメントコントローラアクセスの権限を設定するためのセキュリティグループが必要です。
  リモートマネジメントコントローラへ LDAP を利用してログインするためには、ユーザ（ID）がこのセキュリティグループに属している必要があります。

重要

- 設定にはディレクトリ・サービスの知識が必要となります。十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。

■ ディレクトリ・サービスの設定（Active Directory の場合）

Windows 標準のディレクトリ・サービスである「Active Directory」を例に、設定手順を説明します。
リモートマネジメントコントローラがディレクトリ・サービスにアクセスし、利用するために、Active Directory（ディレクトリ・サービス）へ以下の設定を行います。

POINT

- リモートマネジメントコントローラにアクセスする「ユーザ（ID）」／「パスワード」は事前に Active Directory で作成しておく必要があります。

1 Active Directory のドメイン配下に Organizational Unit（以降 OU と記載します）として「iRMCgroups」（名前固定）を作成します。

1. Active Directory が設定されているサーバで 「Active Directory ユーザーとコンピュータ」設定を起動します。
2. ドメイン名の配下に「iRMCgroups」という OU を作成します。

POINT

- Active Directory のドメイン名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「Directory Service Configuration」の「Domain name」に設定します。
  →「4.10.2 Directory Service Configuration」（P.72）

2 手順 1 で作成した OU「iRMCgroups」の配下に、さらに「Departments」「Shell」（両方とも名前固定）という OU を作成します。

OU「Shell」は使用しません。

3 手順 2 で作成した OU「Departments」の配下に、さらに OU を作成します。

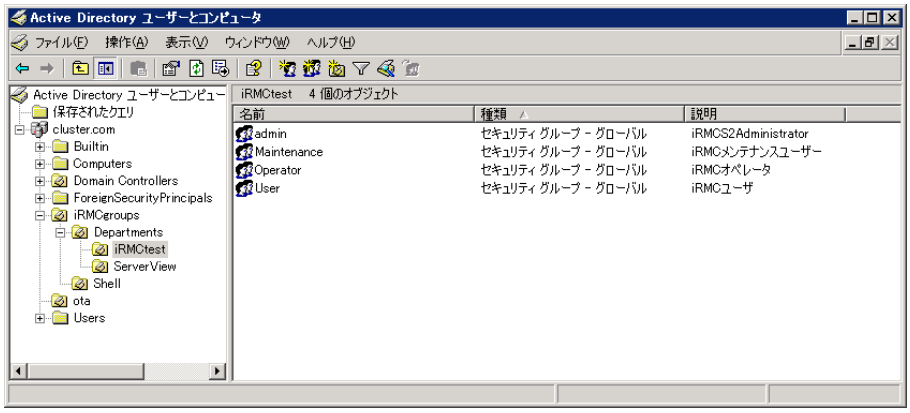
ここで作成する OU の名前は、任意です。

OU「Departments」の配下には、複数の OU を作成することができます。

POINT

- ここで設定した OU 名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「Directory Service Configuration」の「Dept. name」に設定します。
  →「4.10.2 Directory Service Configuration」（P.72）
  「Directory Service Configuration」の「Dept. name」に設定できる OU 名は 1 つのみです。

4 手順 3 で作成した OU（任意の名前）の配下に「セキュリティグループ - グローバル」を新規作成します。



上の図では「admin」「Maintenance」「Operator」「User」の 4 つのセキュリティグループを作成しています。グループ名、グループ数は任意です。

5 作成したセキュリティグループのプロパティを表示し、「メモ」に各権限を設定したテキストを入力します。

表：「メモ」に設定する内容

項目	設定値
LAN	OEM ／ Administrator ／ Operator ／ User
Serial	OEM ／ Administrator ／ Operator ／ User
UserAccounts	On ／ Off
iRMCsettings	On ／ Off
VideoRedirection	On ／ Off

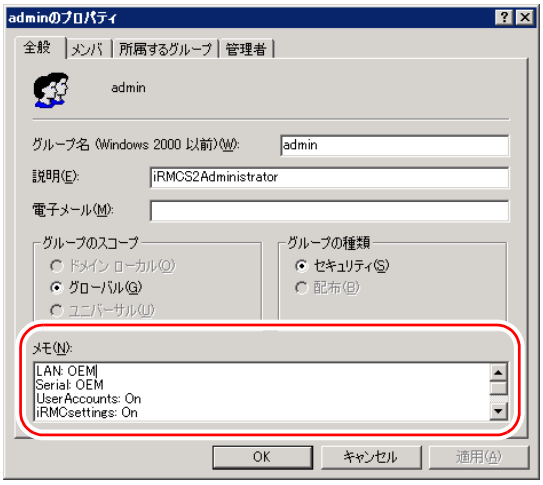
POINT

- 各権限の内容については「■ ユーザ情報の新規作成」（→ P.71）を参照してください。

入力例

```
LAN: OEM
Serial: OEM
UserAccounts: On
iRMCsettings: On
VideoRedirection: On
RemoteStorage: On
```

ここで設定した権限がリモートマネジメントコントローラでの権限となります。



6 リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）をセキュリティグループに登録します。

1. ユーザを登録するセキュリティグループのプロパティを表示し、［メンバ］タブをクリックします。

2. ［追加］をクリックして、リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）を設定します。

7 Active Directory の設定終了後、リモートマネジメントコントローラの「Directory Service Configuration」の各項目を設定します。

→「4.10.2 Directory Service Configuration」（P.72）

次回のログインより Active Directory が使用可能となります。

索　引

く

グラフィカルキーボード 85

て

ディレクトリ・サービス 94

ま

マウスカーソルのシンクロ動作設定 79

り

リモートマネジメントコントローラ 10
　対応機種 10
　ユーザ名とパスワードの設定 14
　IP アドレスの設定 14
　Web インターフェースの機能 10
　留意事項 11

L

LDAP 94

O

Organizational Unit 94

V

Video Redirection
　画面構成 78
　グラフィカルキーボード 85
　操作ボタン 79
　マウスとキーボードの設定 85
　メニュー 78
　リモートストレージ接続 81

W

Web インターフェース
　起動 18
　終了 23
　メニュー一覧 21
　ライセンスキーの設定 30
　Advanced Video Redirection 75
　Alerting 64
　BIOS Text Console 74
　Certificate Upload 32
　Component Status 52
　Console Redirection 74
　DHCP Configuration 62
　Directory Service Configuration 72
　DNS Configuration 63
　Email Alerting 65
　Fans 44
　Generate a self signed RSA Certificate . .33
　iRMC SSH Access 89
　iRMC S2 29
　iRMC S2 Information 29
　iRMC Telnet Access 91
　Network Interface 58
　Network Settings 58
　Power Options 37
　Ports and Network Services 60
　Power Consumption 40
　Power consumption configuration 40
　Power Consumption History 42
　Power Management 35
　Power On/Off 35
　Power Supply 51
　Power Supply Information 38
　Remote Storage 87
　Save iRMC S2 Firmware Settings 31
　Sensors 44
　Server Management Information 56
　Session Logout 92
　SNMP Trap Alerting 64
　System Component Information 28
　System Event Log 53
　System Event Log Configuration 55
　System Event Log Content 53
　System Information 26
　System Overview 26
　Temperature 47
　User Management 67
　Voltages and Current 49

リモートマネジメントコントローラ
ユーザーズガイド

B7FH-5351-01 Z0-00

発 行 日　2008 年 1 月

発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。